

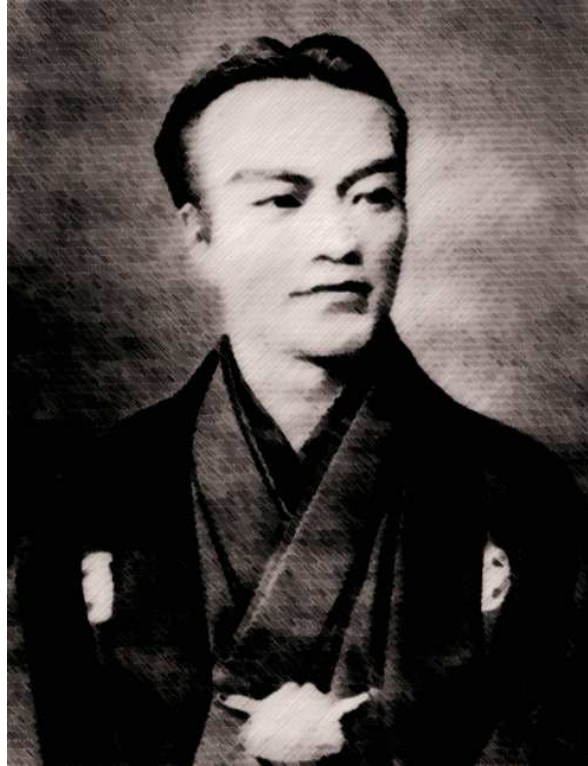
生誕180周年

# 五代友厚銅像建立記念誌



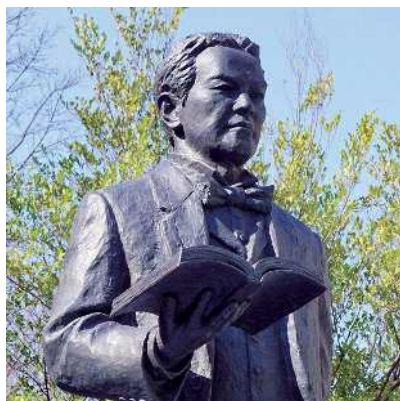
五代友厚像

大阪市立大学同窓会



朱友亭

# 生誕180周年 五代友厚銅像建立記念誌



## 目次

記念誌発刊に寄せて	児玉隆夫 同窓会長	2
祝辞「五代友厚公に思いを馳せて」	荒川哲男 理事長兼学長	3
五代友厚の生涯と業績		4
大阪市立大学の歴史		5
五代友厚銅像完成記念行事 第1部	記念講演会	6
五代友厚銅像完成記念行事 第2部	五代友厚銅像除幕式	10
五代友厚銅像完成記念行事 第3部	完成記念パーティ	15
五代友厚像と記念広場「五代スクエア」		18
五代友厚の大阪での足跡		22
五代友厚の系譜		24
五代友厚の関連図書一覧		25
五代友厚銅像建立に至る経過報告		26
五代友厚銅像建立事業 新聞掲載記事		29
五代友厚銅像建立 寄付者一覧		30
広告		34

# 記念誌発刊に寄せて



大阪市立大学同窓会 会長  
**兎玉隆夫**

私たちは母校の淵源が大阪商業講習所に始まることはよく知っていますが、これを創設した人たちやその想いにまで行きあたることは、ほとんどありませんでした。この状況を一変させたのが商友会で上がった「五代友厚の銅像を建てよう」という声でした。五代友厚は言うまでもなく大阪商業講習所設立に中心的な役割を果たした人です。

銅像建立の話は大学および各学部等同窓会の賛同を得て全学同窓会として取り組むこととなりました。初めて取り組む大事業であり、プロジェクトチーム(PT)を立ち上げ、正式に活動を始めたのは2014年の12月に入ってからでした。当初、除幕式を五代友厚生誕180周年にあたる2016年2月を予定していましたが時間的な余裕がなく、PT会議を頻繁に開きながら準備が進められました。この間、大学をはじめ多くの方々のご協力を得ましたが、特に、大学からはPTチームにアドバイザーとしてご参加いただき、多大なるご支援をいただきました。この事業を無事成功裏に完成させることができましたのはPTメンバーの献身的な努力・協力によるものです。ここに改めてPTメンバーの皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

募金事業については多くの卒業生の協力を得ることができ、当初の目標をはるかに越える額に達しました。母校に熱い思いを寄せる卒業生の多いことに感謝しています。お陰で銅像の設置場所一帯を学生が憩えるような広場として整備し、大学に寄贈することができました。

2016年3月19日に行われた除幕式では、前年の秋から始まったNHK朝の連続ドラマ「あさが来た」で、五代友厚役を演じたディーン・フジオカ氏が五代氏ゆかりの方々と共に参加してくださいました。そして、像を前にして五代への思いを語っていただき、参加者に大きな感動を与え、また、多くのマスコミにも取り上げられました。

NHK朝の連続ドラマのお陰で五代友厚は一躍有名人になりました。これを一時の出来事に終わらせないために、五代の偉業と銅像建立の経緯をここにまとめることにしました。この記念誌が五代友厚像とともに多くの市大関係者に親しまれること、そして特にこれから市大で学ぶ学生諸君には五代の抱いた夢と志が受け継がれることを願っています。

# 五代友厚公に想いを馳せて



公立大学法人 大阪市立大学 理事長兼学長  
**荒川 哲男**

全学同窓会の熱い想いが、杉本キャンパス内に具現化した。遠く海外に、ほとぼしる視線を向ける、堂々たる五代友厚公像の建立だ。2年の歳月をかけて、除幕式を迎えたのは、半年前のことである。

除幕式には、「朝が来た」で一躍時の人となった、五代友厚役のディーン・フジオカが駆けつけてくださった。当時、私は医学研究科長として列席させていただいたが、彼の謙虚で真摯な態度は、五代友厚の人柄ともダブる。像をじっと見つめて、言葉に詰まるシーンは、想いがこみ上げてくるようで印象的であった。

五代氏は、大阪市立大学のルーツである大阪商業講習所を設立したが、同時に大阪商工会議所や大阪税関、大阪取引所、造幣局などの礎をも築いた。これらは、大阪を日本の近代化の先駆け、モデル都市にしようとの狙いがあった。

この精神は、大阪市が設立した公立大学としての大阪市立大学のミッションに深く息づいている。まさに「グローバル」。大阪という地場（ローカル）で実証実験を成功させ、それを日本全体、世界へ発信していく（グローバル）というミッションに繋がっている。

本学は独立行政法人化して10年が経過した。現在、第二期の中期目標を1年半残し、第三期の成熟した中期目標を睨んでいる。第二期の残りの期間で、重点3戦略の具体的成果を積み上げるために、この4月から西澤理事長・学長からその責務を引き継がせていただいたことを機に、「笑顔あふれる知と健康の拠点」というスローガンを掲げた。このスローガン実現に向けて、具体的に重点3戦略の最初の「都市大阪のシンクタンク」機能の見える化を図る。

大阪は、健康寿命、がん死亡率、認知症患者数、高齢化率など、どれをとっても全都道府県でワースト5に入る。平均寿命と健康寿命の差も全国平均より2年永い。この差が医療費の高騰や介護難民を生んでいる。健康寿命を延伸させることで、大阪の経済的・社会的負担はかなり軽減する。

本学は、総合大学として、8学部10研究科を有しており、枠を超えたクロスイノベーションが可能である。各分野から英知を結集し、大阪の抱える課題を解決するシンクタンク機能を果たす。3年前に立ち上げた一般財団法人ものづくり医療コンソーシアム（理事長：大畑建治医学研究科長、理事：青木豊彦氏）と一般社団法人アスリートネットワーク（理事長：柳本品一氏）を両輪に、市民参加のイベントと最先端研究を進めながらスローガンを実現させる。

五代友厚公の精神である「自利より他利を優先」を貫き、本学のプレゼンスを高め、ブランド力に磨きをかけます。同窓会の皆様、温かいご支援をよろしく願いいたします。

# 五代友厚の生涯と業績 1836～1885

1836年(天保6) 0歳 2月12日 生誕 薩摩藩士 五代秀堯(ひであき)の次男として生まれる  
(生誕日は、旧暦の天保6年12月26日 グレゴリオ暦では、西暦1836年2月12日)

## ■武士としての功績

1854年(安政元) 18歳 薩摩藩の郡方所役(ぐんほうしょやく)として、開国論者となる  
1857年(安政4) 21歳 長崎の海軍伝習所に第一期生として派遣される 勝海舟と同期  
1862年(文久2) 26歳 高杉晋作らと共に上海へ貿易で赴く ドイツの蒸気船を購入し、艦長として大阪航路で活躍する  
1863年(文久3) 27歳 薩英戦争において、イギリス軍と交渉し、薩摩市民と蒸気船3隻を守るため自らイギリスの艦船に乗り込み戦争を終結させる  
1865年(慶応元) 29歳 上申書を薩摩藩に提出し、イギリスへ留学生15人を引率する  
五代は、当時19歳の森有礼(一橋大学の創設者)など精鋭を選抜する  
1866年(慶応2) 30歳 長崎市小菅(こすげ)に日本初の近代ドック(小菅修船場)建設着手、ドックはその後、長崎製鉄所(現三菱重工 長崎造船所)となる  
1867年(慶応3) 31歳 幕府が崩壊し、御納戸奉公格(おなんどほうこうかく)という商事面の担当となる  
1868年(明治元) 32歳 外国事務局判事として初めて大阪に赴任する 神戸事件を辣腕により解決  
堺事件(フランス海軍襲撃と堺守備隊の狙撃)を調停する  
初代の大阪税関長に就任し、外国商人を厳しく取り締まる 香港から貨幣鑄造機を購入し、大阪造幣寮(造幣局)の建築に着手し貨幣制度を確立させた  
1869年(明治2) 33歳 新政府の参与に任ぜられていたが、同年7月官を辞し、実業界へ

## ■実業家としての功績

1869年(明治2) 33歳 大阪へ再び戻り、日本で初めて金銀分析所を設立  
1870年(明治3) 34歳 大阪活版所を設立(日本で始めて英和辞書を印刷)  
1871年(明治4) 35歳 大蔵省 造幣寮(現大阪造幣局)が完成 全国から美しい桜を集める 現在の「桜の通り抜け」の由来となる  
1874年(明治7) 38歳 弘成館(全国の鉱山の管理事務所)を設立 日本の鉱山王となる  
1875年(明治8) 39歳 五代邸(現大阪科学技術センター所在地)に大久保利通を泊め、加賀伊(現花外楼)にて大阪会議を仲裁  
半田銀山(福島県)の経営開始  
1876年(明治9) 40歳 朝陽館(染料の藍の大製造工場)設立 明治天皇臨御を受ける  
1877年(明治10) 41歳 堂島米商会所を設立  
1879年(明治12) 43歳 大阪株式取引所(現大阪取引所)創立し、大阪経済の基盤を築く  
大阪商法会議所(現大阪商工会議所)創立 初代会頭に就任  
1880年(明治13) 44歳 大阪商業講習所(現大阪市立大学)を筆頭創立員として創立  
1881年(明治14) 45歳 東京馬車鉄道(東京電気鉄道 現東京都電車)創立  
1882年(明治15) 46歳 大阪製銅会社(現住友金属工業)設立し、日本初の近代的な製銅に着手  
関西貿易社を設立し総監の職に就く  
1883年(明治16) 47歳 共同運輸、神戸棧橋(川崎汽船 K-LINE)設立 大阪湾を近代化する  
1884年(明治17) 48歳 汽船会社合同(前大阪商船 現大阪三井商船)を設立  
1885年(明治18) 49歳 日本初の私鉄 阪堺鉄道(現南海電鉄)を計画して出願  
1885年(明治18) 49歳 9月25日 糖尿病が元で他界 葬儀の列が自宅から阿倍野まで続く  
(享年50歳) 大阪市の阿倍野墓地に永眠する 自邸跡は現在の日本銀行大阪支店になる

# 大阪市立大学の歴史

## 大阪商業講習所創設／1880年(明治13年)

五代友厚は近代国家の建設のためには、商業学校は必須と考えていた。五代は、明治維新の3年前の1865年に森有礼ら15名を選抜し、7か月にわたって英仏を視察して産業や学校・病院の仕組みを輸入した。森有礼は1875年に東京商業講習所を開設した。一方で、大阪市立大学100年史によれば、五代友厚の意を受けた加藤正之助が、1879(明治12年)8月に五代がオーナーを務める大阪新報社に「大阪に商業学校を設置する社説」を発表した。と記述されている。

1880年(明治13年)11月、簿記学、経済学、外国語などを教える学校をつくるため、五代は筆頭の創立員となって、鴻池善右衛門、広瀬幸平、杉村正太郎らに呼びかけ、私立・大阪商業講習所が設立された。定員は60人、入学金は1円。授業料は毎月前金50銭。簿記学、経済学、算術、習字、英語、中国語を中心にカリキュラムが組まれた。簿記学は必須で毎日2時間、算術も必須で毎日1時間、英語は英会話を中心に授業が行なわれた。中国語は、支那学校と提携して授業を交換していた。

開設時の私立・大阪商業講習所は現在の大阪市西区立売堀3丁目17番地にあった旧町会所の建物を校舎としていた。

将来の財政基盤を強化するために、再び五代が筆頭の創立員となり大阪府知事に建言書を提出し、1882年(明治15年)に大阪府立商業講習所と改称され、校舎も西区江戸堀南通3丁目18番地の旧府会議事堂2Fに移転された。1885年(明治18年)3月には、文部省からの多額の補助金を得て、大阪府立商業学校に昇格した。立売堀の旧校舎は移転後も使用・保存されていたが第二次世界大戦中の戦災で焼失し、現在は「阿波座南公園」の一部となっている。なお同地には市制施行70周年を記念し1961年(昭和36年)3月に「大阪商業講習所跡」の記念碑(石碑)が建立されている。

## 大阪市立商業学校へ／1889年(明治22年)

そして1889年(明治22年)、大阪市が誕生したのを機に、大阪市立商業学校となった。1892年(明治25年)10月には、北区堂島浜通2丁目12番の新築校舎に移転した。そこは、五代友厚が経営する朝陽館の敷地だった。「市立大阪商業学校」の商議員のなかに、五代友厚の長男である「五代龍作」が名を連ねていた。

さらに、1901年(明治34年)4月に大阪高等商業学校に、昇格した。1907年の有名な「北の大火」が北区

堂島浜通の校舎を焼き尽くしたが、1911年4月には、天王寺烏ヶ辻町に敷地1万1400坪(建物38棟)の堂々たる新校舎ができあがった。北区堂島浜通の高商の焼け跡には大阪市役所(木造)が建てられた。天王寺烏ヶ辻町においての1934年までの24年間は、多数の優秀な人材を輩出し、高商、商大と全盛期を迎え、桜花爛漫に謳われる烏丘時代となっている。

## 大阪商科大学昇格／1928年(昭和3年)

関一(せき・はじめ)市長をはじめ、同窓生及び大阪市民の十年間に及ぶ熱心な昇格運動が結実し、1928年(昭和3年)、単科大学ながら学部・予科・高商部の三位一体構成を特色とする日本初の市立大学である「大阪商科大学」が誕生した。河田嗣郎(かわたしろう)初代学長のもと、各地から優秀な教員スタッフが次々に集められ、1933年杉本町に敷地5万坪超の新学舎が建設された。ゾンバルト文庫・福田文庫をはじめとする研究図書の実も進み、ここに実践と理論を組み合わせた科学の殿堂が作り上げられた。大阪商科大学の学部には、当時としては珍しい市政科が設置された。「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」——ドイツ初の商科大学であるケルン大学を源泉としての都市大学だった。

しかし1941年(昭和16年)の太平洋戦争開戦を境に大学は不遇の時代に突入する。軍事訓練、学徒出陣、学部学舎の兵舎転用など、苦難の戦中を乗り越えた後も、戦後に至ってなお、占領軍による杉本町学舎接収という受難の時代が続いた。第二次世界大戦中、他の商大・高商の校名から「商」の文字が消えた中、校名を守り通した。高等商業部は大阪工業経営専門学校と改称されたが、戦後、高等商業部に復称した。

## 新制の総合大学である大阪市立大学が発足 1949年(昭和24年)

1949年(昭和24年)には大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校の統合によって新制総合大学である大阪市立大学が発足した。さらに1955年には大阪市立医科大学の編入による医学部設置をもって、現在の大阪市立大学の原型が確立した。1956年には、杉本学舎は進駐軍から返還され、阿倍野学舎と合わせると敷地面積は8万坪を超える総合大学となった。東京五輪が開催される2020年には、大学は創立140周年を迎える。

# 五代友厚銅像完成記念行事

平成 28 年 3 月 19 日 (土)、五代友厚の銅像完成を記念して  
大阪市立大学・杉本キャンパスで五代友厚銅像完成記念行事が行われた。  
記念行事には同窓生を始め大学関係者、在学生など約 500 名が出席し、  
五代友厚の多大なる功績に思いを馳せながら、銅像完成を心から祝した。



総合受付

## 第 1 部 記念講演会

(田中記念館ホールにて)

NHK 連続テレビ小説「あさが来た」で時代考証を担当された鹿児島大学名誉教授・鹿児島県立図書館長原口 泉先生を講師として招き、「五代友厚の志と功績」という演題で約 1 時間、講演が行われた。  
(講演内容は P.7 ~ 9 に掲載)



鹿児島大学名誉教授 原口 泉 先生



ホールの外、ホワイエでも大型モニターで放映



## 講演内容

### 大阪を再生した薩摩藩士 五代友厚

原口 泉(鹿児島大学名誉教授)

#### 地球儀と地理書を見ながら世界を夢見た少年

～島津斉彬が才能を発見～

五代は天保六年(1835)十二月二十六日、鹿児島城下城ヶ谷(じょうがたに)で、父秀堯と母やすの二男として生まれた。幼名を徳助といたった。

今年この誕生地が鹿児島市によって整備されることになった。

五代は八歳の時、児童院という塾に入門、これは漢学塾であろう。十二歳で藩校造士館に通い始め、幼くして他の誰よりも漢学の素養を身につけていた。十四歳のとき父秀堯に世界地図模写の藩命が下ると、五代は父にかわって模写図を二枚作り、一枚は薩摩藩主斉興に献じ、一枚は自分の部屋に掲げていつもながめていたという。また地球儀も作り、秘かに海外雄飛を夢見たという。

秀堯が藩命を受けて著わした「三国名勝図会」全六十巻が完成したのは天保十四年(1843)、五代八歳の時である。薩摩国・大隅国・日向国三カ国を網羅した地理書の編纂には数カ年を要したであろうから、五代は物心ついた頃から、父の作業を見ていたことになる。

弘化元年(1844)フランスの軍艦アルクメーヌ号が薩摩藩支配下の琉球国那覇に来航して通信・貿易・布教を要求した。この時、藩から琉球に派遣される役人に対して、琉球交易係であった秀堯は「琉球秘策」を著わし手渡した。秀堯はフランスとの戦い



五代友厚 生誕地

を避け、和好・交易を受容し、和を以て臨むべしと述べている。五代九歳の時である。

一六歳で新藩主島津斉彬の側近く仕えるようになり、斉彬から才助の名をもらった。辺境の領国薩摩藩に才助のような開明的な青年がいることを知り、江戸生まれ江戸育ちの開明派大名斉彬は喜んだことだろう。

青年時代、水戸の尊王攘夷思想に心酔していた渋沢栄一と違い、才助は少年時代から海外への憧れを持っていた。儒学者で歴史家でもあった父秀堯の薫陶の賜物であろう。十六歳の五代は、ジョン万次郎から真っ先に英語を習ったことであろう。

#### 薩英戦争と英国で学んだ国際法とビジネス

～国際都市長崎での活躍が薩摩藩海軍力を強化～

安政四年(1856)五代は長崎海軍伝習所の伝習士となった。ここでオランダ士官から航海・砲術・測量・数学などを学んでいる。勝海舟・榎本武揚・佐野常民・中牟田喜之助ら幕臣、佐賀藩士が同じ伝習生であった。五代はこの長崎遊学時代(慶応四年まで帰藩、海外渡航期間を除き、約六年間)に堀孝之(長崎人で薩摩藩お抱えの通詞)やイギリス商人グラバーと生涯の知己となる交際をしている。

五代の長崎での活動を如実に示す証文が先頃、小曾根家で見つかった。文久元年(1861)十二月、五代は長崎の豪商小曾根乾堂に7500両融通しているのである。「金子御取替申一札之事」。7500両といえば、数億円の大金である。二十代半ばの五代は、自分の金として用立てたのである。後に「大阪の恩人」といわれた五代の埋財の才を示す証文である。(朝日新聞2016年1月30日夕刊記事)。

翌文久二年からの五代の活躍はめざましかった。一月と四月の二回、上海への渡航。一回目はグラバーと一緒に藩命を受けて約3四万両の汽船を購入、二回目は懇意にしていた通詞岩瀬公園(こうほ)の従者として幕府船千歳丸(せんざいまる)にもぐりこみ上海の市場調査を行った。

文久二年八月イギリス人を殺傷した生麦事件の賠償要求に翌年イギリス艦隊が鹿児島に向かい、薩英戦争が勃発した。五代は長崎で艦隊の鹿児島行きを阻止し

ようと決死の覚悟で待機していた。艦隊は太平洋航路で鹿児島入りしたため交渉できなかった。鹿児島で五代は船奉行副役として蒸気船に乗り込んでいたが、松本弘安(寺島宗則)とともに自主的にイギリスの捕虜となった。戦後交渉するつもりであったと思われる。五代は敵将クーパーに陸戦では薩摩軍は死を恐れずイギリス軍に勝ち目はないと進言したため、イギリス軍はひとまず横浜に退去したと言われる。



薩摩藩 留学生記念館

戦争嫌い交渉手腕は父親譲りといえる。元治元年(1864)藩から赦免された五代の長崎での最初の仕事は、炭鉱の購入であった。同年八月、五代は唐津藩の炭鉱を入手した(「薩摩山」と呼ばれる)。藩の中では全国一多い十余隻の蒸気船を所有する薩摩藩が炭鉱を入手できたことは、戊辰戦争までの薩摩藩に機動力を与えたことになる。

その翌年、五代の藩への上申書が採用され、イギリスへの使節と留学生の派遣となった。五代の任務は紡績機械の購入と技師の招聘、そして最新の武器の購入であった。五代はマンチェスター、バーミンガムを視察し、綿紡績機と武器を購入、この機械が慶応三年(1867)鹿児島紡績所に設置され、わが国最初の機械紡績



鹿児島紡績所(明治期)



鹿児島紡績所 技師館(異人館)

所が誕生した。同年、ホームら技師七人も鹿児島にそろう、新築の洋風建物である技師館(「異人館」として現存、2015年に世界遺産に登録)に居住し指導にあたっている。江戸時代の洋風建築は現在日本には三つしかない。長崎のグラバー邸とオルト邸、それに鹿児島の異人館である。二階建ては鹿児島のものだけである。

五代の活動は、舞台をヨーロッパに移し、新たにベルギーとの貿易計画の仮契約を結んでいる。この中で堂々と翌々年開催予定のパリ万博への参加も謳っている。いまだベルギーと幕府との国交も無いときに、完璧に幕府を出し抜いたのは五代の知恵であった。

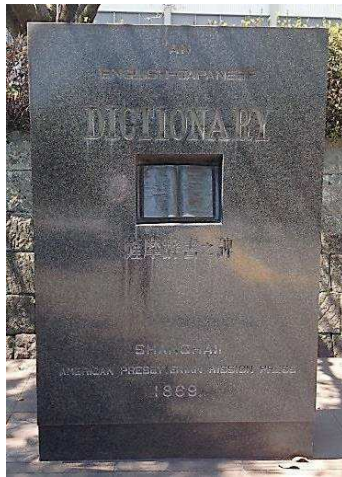
帰国した五代のグラバーとの共同事業が小菅(こすげ)ドックの建造である。日本初の本格的な洋式修船場である。薩摩藩は五代の活躍で前の炭鉱と修船場を持ち、全国の藩の中で最大の海軍力を発揮できるようになった。(小菅(こすげ)ドックは、2015年に世界遺産に登録された。)

## 大阪を近代商業都市に再生する

岡山藩・土佐藩の事件関係者の打ち首を要求したパークスら外交団に対して、五代は切腹で交渉し、最終的には切腹者は当初の二十九人から十一人とどまっている。武士の誇りと人命尊重のため、五代の外交交渉力が発揮された。また、五代は初代大阪税関長となり、川口運上所を設け、不正取引を取り締まった。外国商人の苦情に対しても不正や理不尽なことに対しては、周りから手心を加えたらといわれても厳格に対応し、自らの正義を示した。

五代は明治二年(1869)五月横浜転勤を命ぜられると、同年七月退官し、大阪の再生に全力を傾注することになる。官界を去ってからの五代は明治三年以降、名を友厚に変えたが大阪再生への意気込みを示したのかもしれない。長崎の本木昌造とはかり、大阪活版所をつくり英和辞書を刊行し、文明開化に取り組んでいる。同年四月、薩摩藩より堺紡績所掛を命ぜられている。五代の眠る市設南霊園と旧堺紡績所跡とを今、阪堺電気軌道が結んでいる。五代が関わった大阪堺間鉄道である。現在、阪堺電気軌道の緑化工事が、同じ路面電車の鹿児島市電をモデルに進められている。ここにも五代の縁が感じられる。

五代と大久保利通は心の友であったといっ  
てよい。明治八年二月  
大阪会議が成立したの  
も五代の努力であっ  
た。孤立した大久保政  
権は危機を脱し、漸次  
立憲政体へ向かう国是  
が天皇の詔の形で示さ  
れ日本の三権分立制も  
始まった。



薩摩辞書の碑(鹿児島県立図書館)

五代の閥にこだわらない人格を示したのは藤田伝三  
郎が偽札事件で窮地に立ったときである。藤田は長州  
出身、しかも財界ではライバルであったが、五代は高所  
に立って大阪の将来を見据えた立場で擁護し、周りを  
驚かせた。藤田は五代の死後、大阪商法会議所の会頭を  
引き継いだ。

## まるで国葬 儀仗兵一中隊が先導した盛大な葬儀

明治十八年(1885)九月二十五日、五代友厚は糖  
尿病により、東京の自宅で没した。享年五十歳。葬儀は、  
五代が死の直前、鹿児島にあった本籍を移していた大  
阪で行われた。葬儀には大阪の人が4800人参列し、  
葬列は淀屋橋南詰から住吉街道鳶田まで三町に及ん  
だ。何故、これほど多くの大阪の人から五代は愛された  
のか。「東の渋沢栄一、西の五代友厚」と並び称される二  
人の偉人だが、「大阪の恩人」との異称を持つ五代の人  
気には及ぶまい。

五代の銅像は大阪に四体あるが、この三月には五体目  
が大阪市立大学キャンパスで除幕された。大阪市立大



五代友厚が眠る市設南霊園(現在の阿倍野墓地)

学の前身は五代が筆頭創立員で建てた大阪商業講習所  
である。故郷の鹿児島にも単体の銅像は一つしかない。

五代友厚銅像



大阪取引所

大阪商工会議所



光世証券

五代の人気は、大阪の経済界に大きな足跡を残した  
ばかりでなく、財界人でありながら、その人格が高潔で  
あり正義感が強かったことによっている。明治元年(1  
868)五代は理不尽な外国商人の取引には厳格な態  
度で臨み、外国事務掛の職責を全うしている。人の面  
見がよく艶福家でもあったからであろう。閥にとらわ  
れず、私利私欲を排した人情家であった。

大阪を愛し、大阪の為に尽くして来た五代は明治十  
八年五十歳の生涯を閉じた。最後まで、己の利益より未  
来に向けての公益の発展に力を注いだ人生だった。

### 【講師紹介】

#### 原口 泉(はらぐちいずみ)

1947年生まれ。東京大学文学部国史学科、同大学院修士課  
程修了(文学博士)。

同博士課程単位取得退学。1979年鹿児島大学法文学部に  
赴任、1998年より教授。

現在、志学館大学教授、鹿児島県立図書館館長、鹿児島大  
学名誉教授。

専門は、日本近世・近代史。薩摩藩の歴史研究に取り組む。  
2015年度後期NHK連続テレビ小説「あさが来た」の時代  
考証を務める。

# 五代友厚銅像完成記念行事

## 第2部 五代友厚銅像除幕式

(五代スクエアにて)

記念講演会に引き続き、除幕式典が「五代スクエア」で行われた。

除幕式には、NHK朝ドラマ「あさが来た」で五代友厚役を演じた俳優のディーン・フジオカ氏、五代家親族の五代正哉氏等、多数の来賓が出席した。



大阪市立大学同窓会・児玉隆夫会長

除幕式の冒頭、大阪市立大学同窓会・児玉隆夫会長が主催者を代表して挨拶を行った。

「2年位前から商友会の中で五代像建立の話が持ち上がり、大学の協力を得て、全学同窓会で取り組むことになったが、同窓生皆さんの多くのご寄付で素晴らしい銅像が出来上がった。又、銅像の周辺を広場として整備したので多くの学生、教職員が憩いの場として五代さんに親しみ、思いを心に刻んでほしい。ここに来れば、いつでも五代さんに会うことができます」



大阪市立大学 西澤良記 理事長兼学長

この後、五代像の除幕が行われ、右手に本を持ち、視線は遠く海外を見据える、凛々しく、優しく語りかける五代像が現れた。

続いて、五代像を背に西澤良記理事長兼学長(当時)が祝辞を述べた。「五代は大阪の産業・商業の復興に努めた。又、商業発展には若い人材が必要と考え、そのために大阪商業講習所を立ち上げた。その思いに先見の明を感じる。学生たちがこの広場で憩いながら、五代の銅像のもとで育つことを念じています」



俳優 ディーン・フジオカ氏

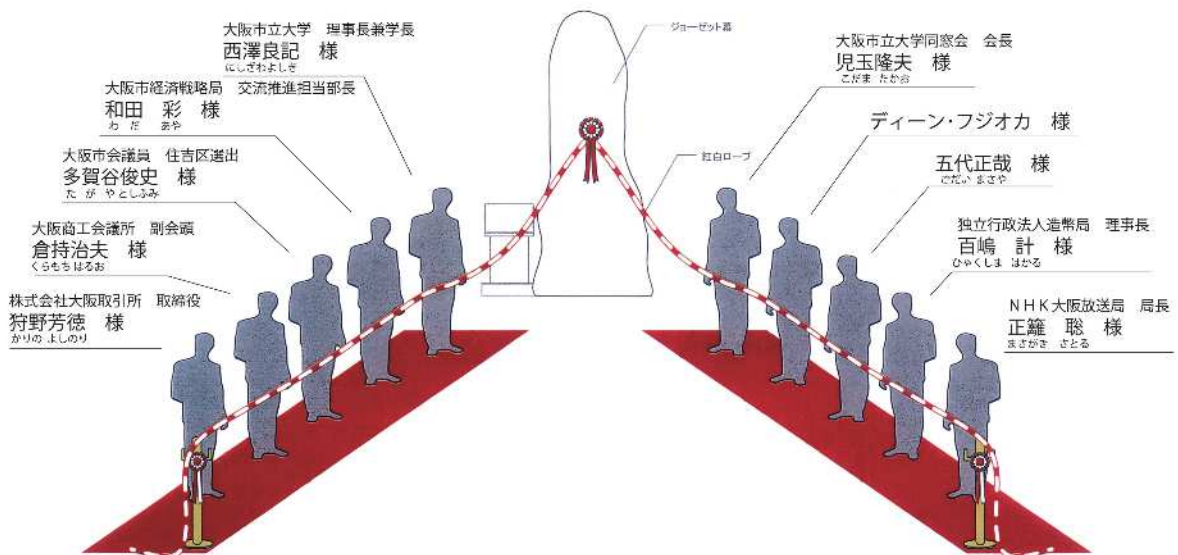
そして、「おおきに五代さん」、ディーン・フジオカさんは感謝の言葉で祝辞を始めた。

「朝ドラ出演の時、五代さんの像に何度も会いに行きましたが、大学で再び五代さんと向き合えるのは感無量です」と喜びを語った。

また、この日の朝、インドネシアの帰国便で大阪の地形を眺めながら、「五代さんが生きていたらどんなことを考えているだろうか」と思いを馳せたエピソードも明らかにした。

祝辞の途中、しばらく五代像を見つめ、「いや～、すごい偉大な人ですよ」と感慨にひたっていた。最後には、学生に向けて「五代さんのようなチャレンジ精神と勇気をもって世の中の荒波に飛び込み、自らの夢に向かって挑戦して欲しい。五代さんが150年前に伝えようとしてくれた思いをこの銅像と向き合い、受け継いでもらいたい」との言葉で結んだ。

除幕式



## 五代友厚銅像完成記念行事／第2部 五代友厚銅像除幕式



ファンファーレ／応援団の皆さん



総合司会 さわともかさん



銅像除幕式会場／五代スクエア



ディーン・フジオカ氏入場





五代友厚銅像とご来賓

五代友厚銅像完成記念行事／第2部 五代友厚銅像除幕式



五代役ディーンと五代正哉氏ご対面



商友会 岡本会長と経友会 塚本会長



# 五代友厚銅像完成記念行事

## 第3部 完成記念パーティ

除幕式終了後、会場を1号館講堂に移して完成記念パーティが行われた。

商友会・岡本直之会長の挨拶に続いて、荒川哲男次期理事長兼学長が乾杯の音頭をとり、出席した卒業生、教職員、在学生は約1時間半の間、食事や会話で盛り上がった。結びは、全学同窓会・尾山基副会長による「本日の式典が無事終わり、皆様のご協力に御礼申し上げます」との閉会の辞で散会した。

この日の総合司会はフリーアナウンサーのさわともか氏(経平6卒)が担当した。



開宴のご挨拶 商友会 岡本直之 会長



総合司会 さわともか氏 (経平6卒)



乾杯のご発声 荒川哲男 理事長兼学長



五代友厚銅像完成記念行事／第3部 完成記念パーティ



ダイキン工業(株) 相談役、元社長 岡野幸義氏 (法昭39)



閉会のご挨拶 全学同窓会 尾山基 副会長

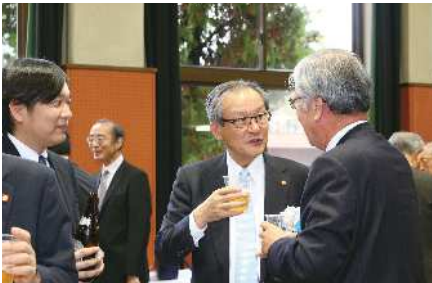


小林俊介氏 (法昭44) 有恒会副会長 金村福寿氏 (商II昭56)



応援団の皆さん





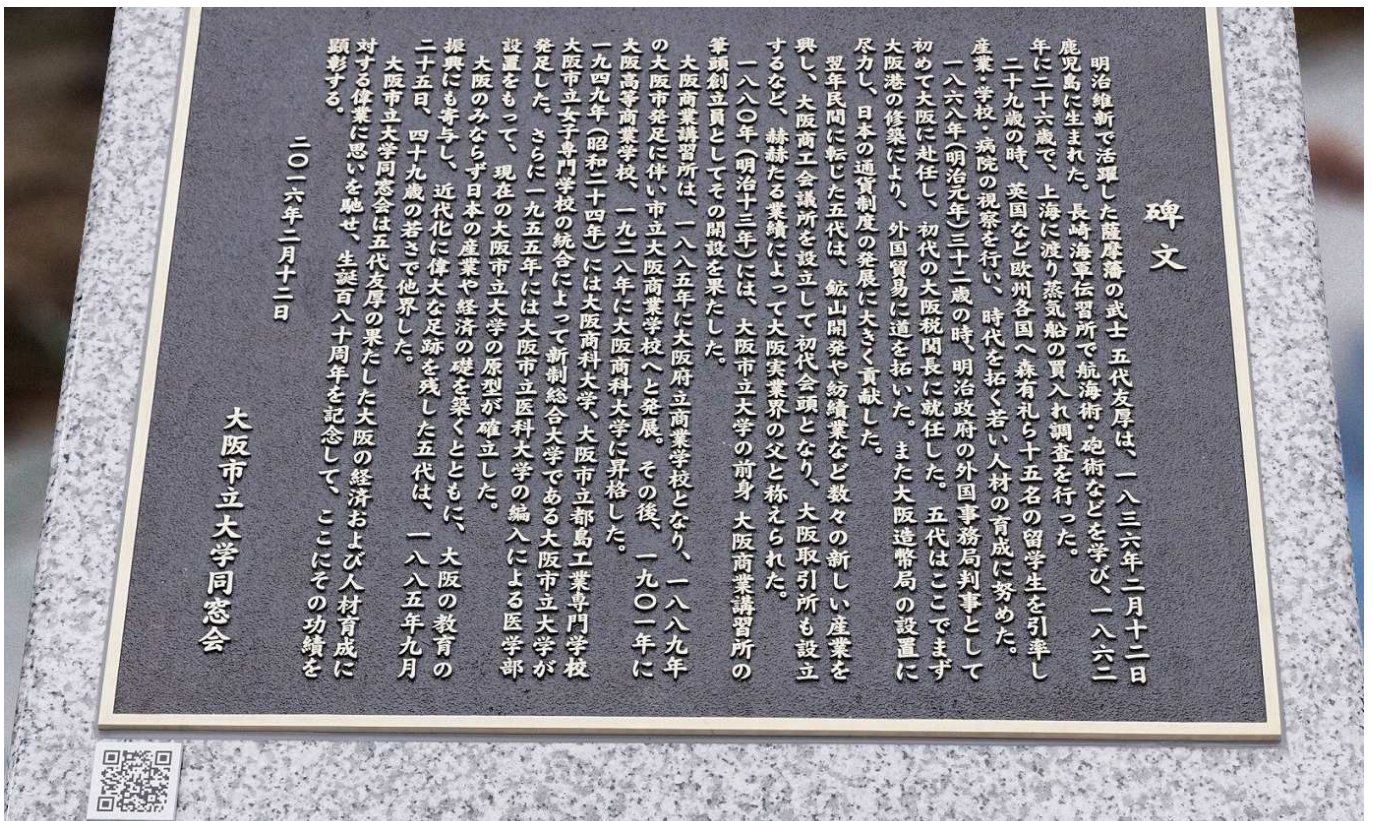
# 五代友厚銅像と記念広場「五代スクエア」



五代友厚銅像と碑文

五代友厚銅像コンセプト：

「右手に本を持ち、視線は遠く海外を見据え、市大生に進取の精神でグローバル感覚を身につけるよう優しく語りかけている。」



五代友厚碑文

五代友厚碑文石は、高さ110cm、幅70cmで、「碑文」は、「大阪の恩人」と言われた五代友厚の功績が記されている。

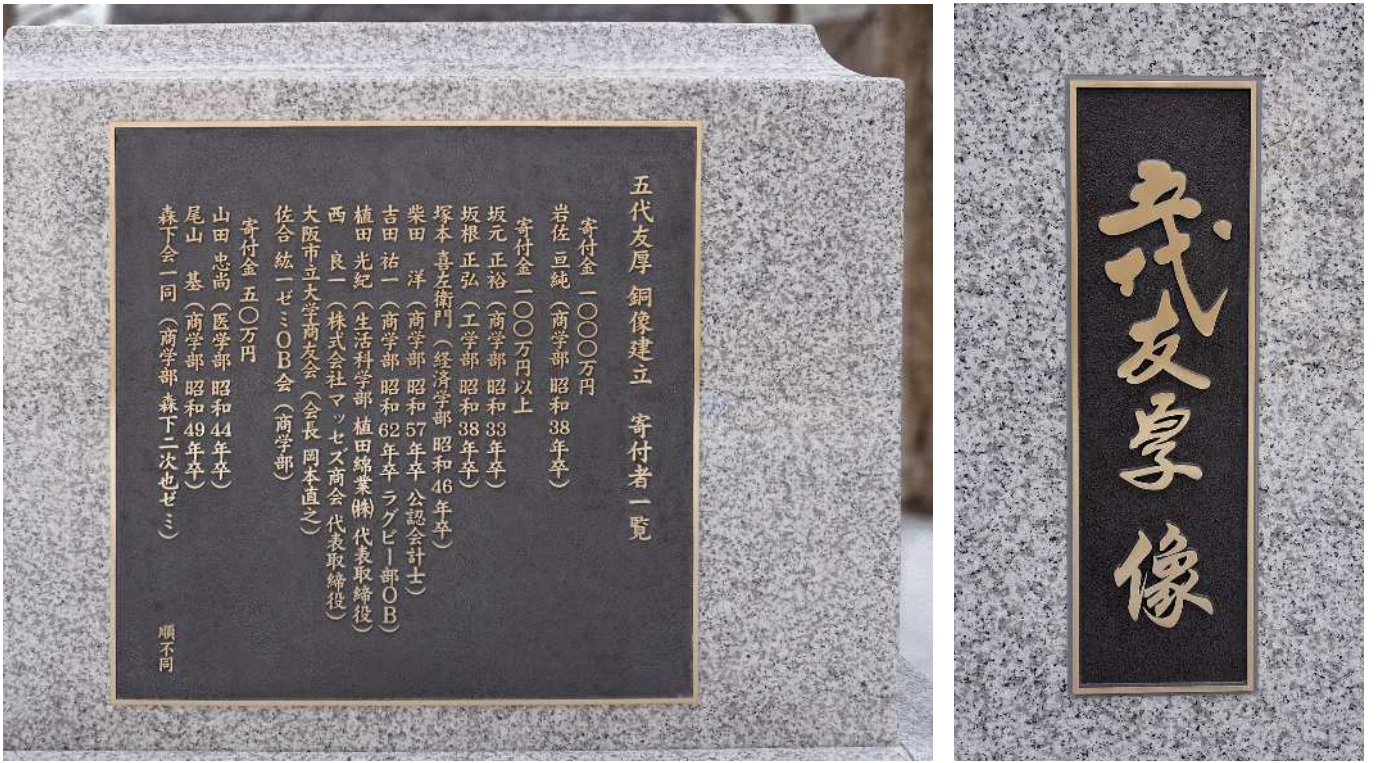
(鹿児島県立図書館長 原口泉先生の監修を得た)

また、碑文石には「QRコード」が取付けられ、携帯・スマホによる検索で、五代友厚のより詳しい情報が得られる。



五代友厚銅像は、全高 340cm (銅像本体高さ 230cm+台座 110cm) のブロンズ製で、富山県高岡市の銅像作家：喜多敏勝氏の作。耐震性にも優れ、震度7レベルの地震にも耐える構造で、台座は、茨城県の一部で採掘できる稀少で高級な純国産「稲田石」で、台座のみでも約4t近くの重量がある。

台座正面の「五代友厚像」銘板の「五代友厚」の文字は、五代の直筆によるもので、10万円以上の寄付を頂いた方には、銅像台座の真鍮製銘板に氏名(学部・卒業年次)、団体名(ゼミ・クラブ等)を刻んでいる。



五代友厚 銅像建立 高額寄付者一覧

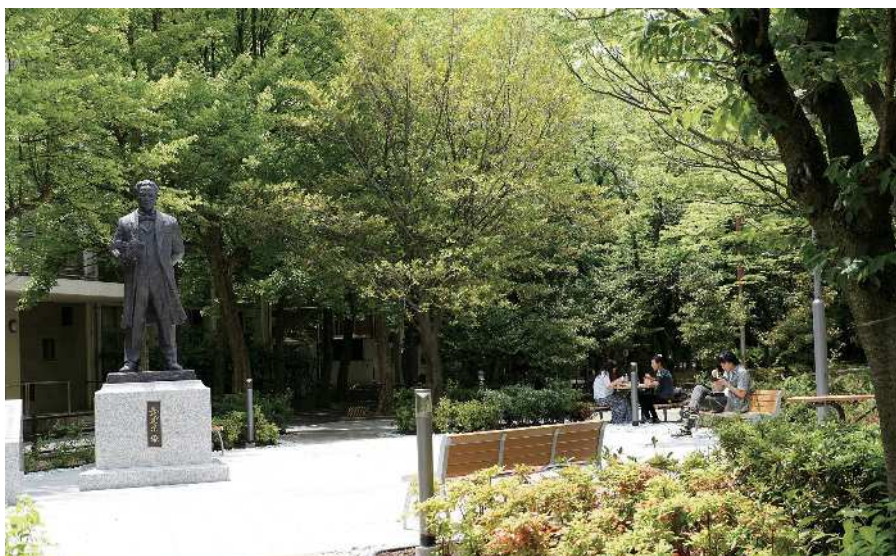
"五代友厚"の文字は、五代の直筆による

**五代友厚 銅像建立 寄付者一覧（寄付金10万円以上）**

氏名 (姓・名)	卒年	氏名 (姓・名)	卒年	氏名 (姓・名)	卒年
大隈南科大学 高等商業部		山田 忠高	昭和44年卒	須藤 邦夫	昭和32年卒
藤田 生清 (一)	昭和61年卒	尾山 基	昭和49年卒	上村 義一	昭和38年卒
大隈南科大学		森下会 一同 (商学部)	森下二次也(ゼミ)	村田 重	昭和27年卒
宇野 實	昭和30年卒			岡田 安生	昭和28年卒
中村 泰三	昭和34年卒			山内 正作	昭和28年卒
川口 俊夫	昭和40年卒			戸茶 常光	昭和38年卒
古川 弘成	昭和44年卒			吉田 厚隆	昭和44年卒
宮水 昭弘	昭和55年卒			奥本 隆彦	昭和44年卒
経済学部				藤原 久	昭和48年卒
水村 三郎(ゼミ) 昭和三6年卒				水村 善夫	昭和48年卒
宇野 實	昭和30年卒			木村 康史	昭和55年卒
池田 武	昭和28年卒			山形 啓三(有志)	
池田 正次郎	昭和40年卒			須藤 邦夫	昭和32年卒
船橋 正射	昭和42年卒			上村 義一	昭和38年卒
岡本 直之	昭和45年卒			寺中 保夫	昭和44年卒
大西 善隆	昭和45年卒			藤川 英	昭和49年卒
五藤 良一	昭和47年卒				
栗田 洋	昭和54年卒				
木村 隆吉	昭和30年卒				
食満 厚達	昭和38年卒				
三木 田敬夫	平成6年卒				
山崎 英太郎	昭和31年卒				
山崎 弘	昭和36年卒				
出原 康雄	昭和42年卒				
宮田 博重	昭和46年卒				
中川 實徳夫	昭和53年卒				
植田 浩吉	昭和44年卒				
森貴 章	昭和55年卒				
猪野 浩司	平成13年卒				
松木 延次郎	昭和38年卒				
加藤 康子	昭和35年卒				
松本 進	昭和37年卒				
小刀 彌義治	昭和26年卒				
峰谷 昇	昭和32年卒				
見玉 隆夫	昭和41年卒				
木村 真一	昭和56年卒				
福田 修一	昭和45年卒				
橋本 一孝	平成5年卒				
西畑 忠治	昭和26年卒				
杉田 修一	昭和25年卒				
樋田 三男	昭和39年卒				
久保 共生	昭和25年卒				
杉浦 重光	昭和30年卒				
小栗 田昭	昭和31年卒				
藤原 恒久	昭和38年卒				
柳原 恒久	昭和38年卒				
松本 進	昭和37年卒				
久保 重孝	昭和33年卒				
床 並良一	昭和49年卒				
佐田 哲司	昭和60年卒				
星川 順一	昭和33年卒				
熊谷 隆三	昭和38年卒				
藤川 英	昭和49年卒				
酒本 善彦	昭和33年卒				
羽原 謙三	昭和38年卒				
福入 百雄	昭和40年卒				
島田 通雄	昭和44年卒				
原 重雄	昭和49年卒				
吉川 良太	平成10年卒				
藤田 光紀	昭和22年卒				
植田 綿業(株) 代表取締役					
西 良一	昭和47年卒				
大田市立大学商友会 (会長 岡本直之)					
佐合 紘一(ゼミ)OB会 (商学部)					
寄付金 五〇万円					
山田 忠高 (医学部)	昭和44年卒				
尾山 基 (商学部)	昭和49年卒				
森下会 一同 (商学部)	森下二次也(ゼミ)				

順不同

五代友厚 銅像建立 寄付者一覧 (寄付金10万円以上)



学生たちが憩う「五代スクエア」

五代銅像周辺の「五代スクエア」は“多くの学生が集える憩いの場”になるようベンチやテーブルも配置し、四季折々の花・樹木も植えられ、バリアフリー対応の遊歩道にもなっている。  
また、遊歩道脇には大学へ寄贈の銘板石がある。



大学へ「五代スクエア」贈呈銘板



季節の花を植樹



テーブルベンチを大阪市立大学同窓会が寄贈



寄贈のベンチ



五代スクエアと桜、椿



五代スクエアとツツジの花

# 五代友厚の大阪での足跡

## 1 大阪商業講習所 (大阪市立大学の前身)

現在の南阿波座公園  
明治13年(1880年)、現在の阿波座南公園の位置に五代友厚が中心となって創立した。



## 2 大阪開港・川口運上所跡 (現在の税関)

元大阪税関富島出張所構内(平成20年6月廃止)  
五代は慶応4年(1867年)初代税関長となり、川口に大阪港を整備し、ここには運上所(税関)、外国事務局などが設置された。



## 3 朝陽館 (日本最初の染料の製藍所)

堂島・田蓑橋北詰  
明治9年(1876年)、五代友厚はインド藍の圧迫に対抗する国産事業の育成を図り、藍製造所である朝陽館を経営した。



## 4 五代友厚旧邸 (西区朝北)

現在、大阪科学技術センター  
明治4年(1871年)西区朝北(現・大阪科学技術センター)に、そして明治18年(1885年)中之島(現・日本銀行大阪支店の場所)に邸を築いた。



## 5 五代友厚旧邸 (中之島)

現在、日本銀行大阪支店



## 6 弘成館 (銅会所～鉱山局)

中之島  
明治6年(1873年)、五代友厚は資本金数十万円を投じて、全国の鉱山の管理事務所である「弘成館」を創設した。



## 7 大阪通商会社 大阪為替会社

北浜 明治2年(1869年)2月、会計官権判事だった五代友厚は、大阪発展のため、豪商らに大阪通商会社及び大阪為替会社の設立を強く働きかけ、設立させた。



## 8 大阪株式取引所 (現在、大阪取引所)

北浜  
明治11年(1878年)五代友厚が大阪株式取引所を設立、現在の大阪取引所に繋がる。



## 9 大阪会議「花外楼」

北浜(現在も開業中)  
明治8年(1875年)2月に大久保利通、木戸孝允、板垣退助らが北浜の料亭「加賀伊」に集まって行われ、五代友厚はその仲介役として参加した。



## 10 造幣寮 (現在、大阪造幣局)

天満・天神橋  
明治4年(1871年)五代友厚が大阪造幣寮(現造幣局)を設立。美しい桜を全国から集め、現在の「桜の通り抜け」の由来となる。



## 11 大阪商法会議所 (現在、大阪商工会議所)

松屋町筋  
明治11年(1878年)堂島・朝陽館内に大阪商法会議所が設立され、五代友厚が初代会頭になる。



## 12 阪堺鉄道—日本初の私鉄 (現在、南海電鉄)

南海難波駅周辺  
1884年(明治17年)南海電気鉄道の前身となる阪堺鉄道は、現在の南海本線難波駅-堺駅間で開業した。



## 13 五代友厚墓地 (現在、阿倍野墓地)

天王寺  
明治19年(1886年)に墓碑が建立された。大阪市南霊園(阿倍野墓地)の中央にランドマークのようにそびえているのが五代友厚の墓である。



## 14 大阪市立大学 杉本キャンパス

住吉区杉本町  
1880年 大阪商業講習所  
1881年 府立大阪商業講習所  
1889年 市立大阪商業学校  
1901年 市立大阪高等商業学校  
1928年 大阪商科大学  
1949年 大阪市立大学



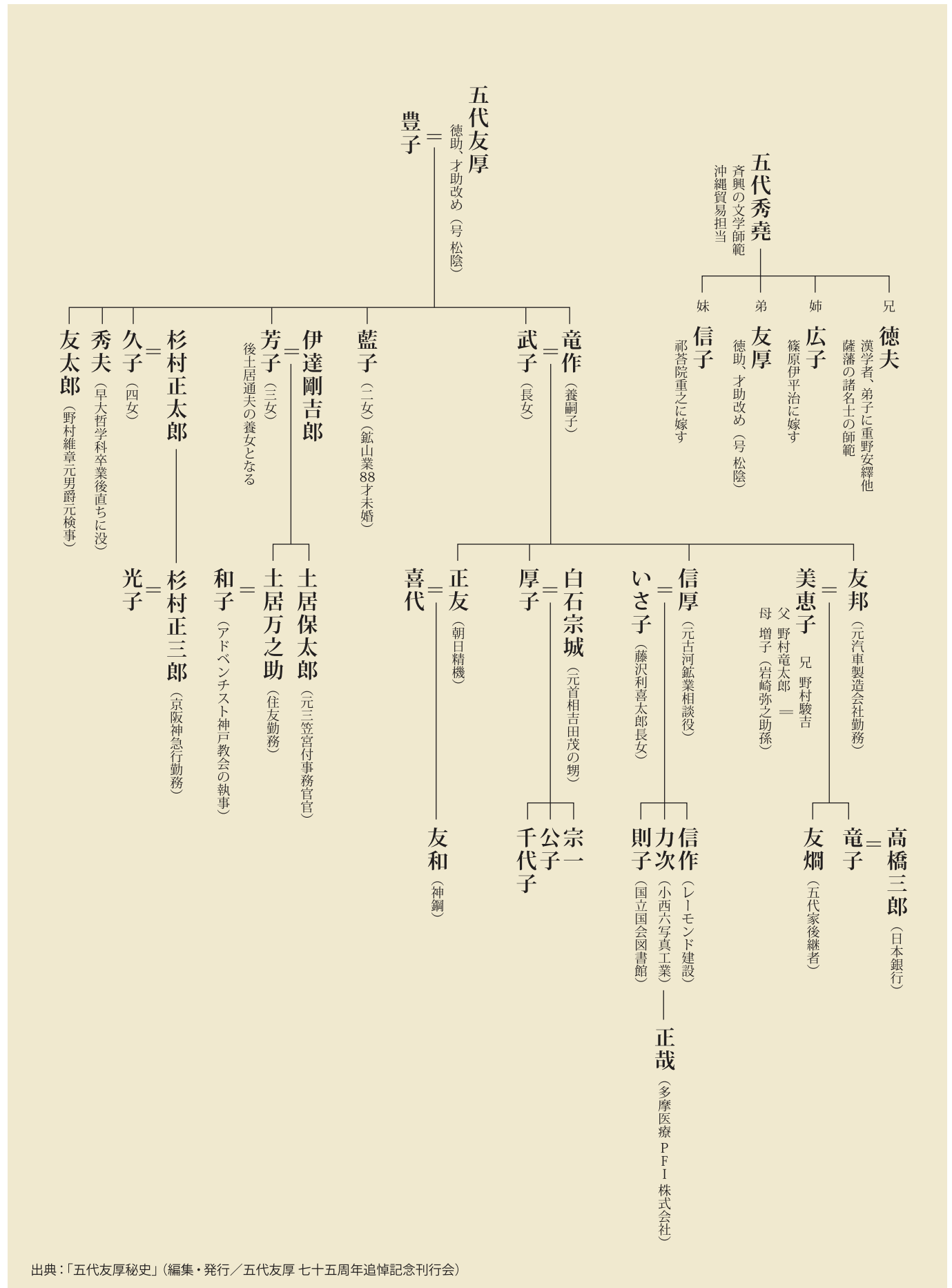


## 五代友厚の足跡マップ

明治2年(1866年)、五代友厚は退官した後、在野で大阪の再建に取り組み、大阪を近代商工都市に再生するため、地元の財界をまとめて大阪商法会議所等を立ち上げるとともに数多くの会社設立に関わった。今でも「大阪の恩人」と言われる所以である。



# 五代友厚の系譜



出典：「五代友厚秘史」(編集・発行／五代友厚七十五周年追悼記念刊行会)

# 五代友厚の関連図書一覧

2016年6月30日現在 柴田洋(商昭57年卒)まとめ

タイトル	著者	出版社	ページ数	出版日	市大の記述	備考
大阪の指導者	織田 作之助	(株)錦城出版社	217	昭和18年	168～169P (2ページ)	渋澤栄一と比較し、五代友厚は明治一番の実業家と評価
五代友厚	織田 作之助	現代社	234	昭和31年	180P(1行)	生麦事件や薩英戦時の記述が多い。
五代友厚秘史	五代友厚 75周年追悼記念刊行会	(株)大阪高速印刷	396	昭和35年	366～367P (21行)	写真が多い。五代家の家系図がある。年譜がある。会話形式で読みやすい。五代の色恋の記述あり。
五代友厚小伝	西村重太郎	大阪商工会議所	63	昭和43年	47～49P (3ページ)	写真が多い。市大の記述が多い。葬儀の記述がある。
五代友厚	小寺正三	新人物往来社	234	昭和48年		大阪会議や熱海会議、明治14年の政変(官有物払下げ事件)の記述が詳しい。
五代友厚伝	宮本又次	有斐閣	568	昭和55年	390～395P (5ページ)	五代友厚の伝記としては、一番の大作で分量も多い。歴史的背景を忠実に再現。
五代友厚	真木洋三	(株)文藝春秋	253	昭和61年	247P(5行)	薩英戦時の記述が多い。
起業家 五代友厚 大阪経済の礎石を築く	小寺正三	(株)社会思想社	349	昭和63年	211P(5行)	文庫本でコンパクトにまとまっている。
功名を欲せず「起業家・五代友厚の生涯」人物再発見！大阪を創った男	渡部 修	毎日コミュニケーションズ	306	平成3年	261～264P (4ページ)	市大の記述が多い。官有物払い下げ事件。
大阪をつくった男 五代友厚の生涯	阿部牧郎	(株)文藝春秋	440	平成10年		歴史小説の形で読みやすい。
大阪でござす 明治商都物語	島 実蔵	(株)時事通信社	278	平成13年		五代友厚と大久保利通との友情の記述が多い。
士魂商才 五代友厚	佐江衆一	新人物往来社	397	平成16年		薩英戦時の記述がある。
幕末を呑みこんだ男 小説 五代友厚	黒川十蔵	(株)産経新聞	326	平成25年	320P(2行)	後半に五代と昭和の偉人とのつながりの記述がある。
広岡浅子の「九転十起」 五代友厚との数奇な運命	原口 泉	海竜社	223	平成27年	109～110P (市大同窓会が五代像建立)	NHK朝の連続ドラマのヒロイン広岡朝子と五代友厚の運命。五代友厚の記述が多い。
五代友厚伝記資料(第一巻)伝記・書翰	日本経営史研究所	東洋経済新報社	578	昭和46年		伝記・書翰の記述。
五代友厚伝記資料(第二巻)貨幣・取引所・貿易・大阪商法会議所・その他	日本経営史研究所	東洋経済新報社	545	昭和47年		貨幣・取引所・貿易・大阪商法会議所・その他の記述。
五代友厚伝記資料(第三巻)鉱山・工業・商社・交通	日本経営史研究所	東洋経済新報社	524	昭和47年		鉱山・工業・商社・交通の記述。
五代友厚伝記資料(第四巻)政治・外交・雑纂・年譜	日本経営史研究所	東洋経済新報社	256	昭和49年		政治・外交・雑纂・年譜の記述。

# 五代友厚銅像建立に至る経過報告

「五代友厚銅像建立」の企画は商友会（商学部OB会、岡本直之会長）から持ち上がった。

この目指す趣意は、五代友厚が平成28年（2016年）2月12日、生誕180周年を迎えるに当り、この周年を記念して、母校市大建学の「象徴」、市大卒業生と在学生の「誇り」に繋がる五代友厚銅像を杉本キャンパス内に建立し、末永く顕彰したいとの思いからです。

平成26年7月、岡本会長が大阪市立大学・西澤良記理事長兼学長にこの企画の件で面談、西澤学長から趣旨は理解できるが、この案件を同窓会全体の総意として大学へ提案する様にとの意向が示された。

同年8月、商友会は経友会（経済学部OB会・塚本喜左衛門会長）の側面協力を得た上、大阪市立大学同窓会（通称：全学同窓会、児玉隆夫会長）に「五代友厚銅像建立企画書」を提示するとともに全学同窓会として取り上げて頂きたいとの要請を行なった。

同年10月、全学同窓会会長・副会長会議にて全面的に賛同をいただいた後、児玉会長から西澤学長に対し「趣意書」を添えて銅像建立計画の提案とご協力をお願いを行なった。

同年12月、西澤学長から大学内の意見調整を終えて、正式に申入れを受け入れるとの回答があった。但し、大学としては「夢基金」（大学の寄付金受入れ窓口）の活用は出来ない及び「大学ミュージアム構想」の一環としてこのプロジェクトを捉えて頂きたいとの要望があった。

この結果、銅像建立に当たっては、全学同窓会が窓口となり、同窓生（卒業生）を中心に寄付金を募り、銅像建立事業を推進することになった。

同年12月、全学同窓会を中心にプロジェクトチーム（PT）が組織され、全学ベースで銅像建立及び寄付金募集等の取組みに入った。

プロジェクト推進に当っては、大学側から大学史資料室の新旧室長の安竹貴彦教授、大島真理夫教授並びに法人運営本部の方々がPT検討会議に参加され、貴

重なる助言と協力をいただいた。

平成27年1月から約10カ月、PT検討会議は計10回に亘り開催、大学側と協議を重ねるに至った。その間の主要なる協議・決定事項は後述の通りです。

平成28年2月、杉本キャンパス1号館横（商学部と文学部の間の緑地ブロック）に「五代スクエア」の完成と併せて「五代友厚銅像」の据え付けを完了する。（別途）

平成28年3月19日（土）、杉本キャンパス内で除幕式典を開催する。（別途）

## PTの主要なる協議内容

### ①銅像建立場所及び広場

当初、同窓会では大学に1号館前の中庭をお願いしたが、大学からは商学部と文学部棟の間の緑地ブロック全体を広場として活用、その中に銅像を建立すればとの助言があり、最終的に同窓会は同意する。

広場：「五代スクエア」については、多目的に利用できるスペースを確保、四季を感じる花・樹木及び庭園灯、テーブル&ベンチ等を配置し、多くの学生が集える、憩いの場所とする。

銅像建立場所は、この広場の概ね中央で銅像正面は1号館に向かって位置する。

（五代スクエア関係は同窓会から大学へ全て寄贈する）



当初の五代銅像/スクエア デザインシュミレーション(案)

彫塑家 **喜多 敏勝** (きたとしかつ) 氏のプロフィール

1954年 富山県高岡市に生まれる。  
彫塑家 米 治一氏に師事し彫塑技術を学び、現在に至る。

[受賞歴]

- ・高岡伝統産業創作振興展ならびに加工技術展最優秀賞
- ・高岡市展・市長賞
- ・富山県展入選
- ・日展入選

[主な作品]

- ・真田幸村公 立像制作 (大阪市山光神社境内)
- ・武田信玄公 座像制作 (山梨県塩山駅ロータリー)
- ・源義家公 立像制作 (東京都府中市大国魂神社)
- ・初代琉球王 金丸立像 (沖縄県伊是名島)
- ・木曾義仲公と巴御前像 (長野県日義村)
- ・宮本武蔵と伊織立像 (兵庫県高砂市西光寺)

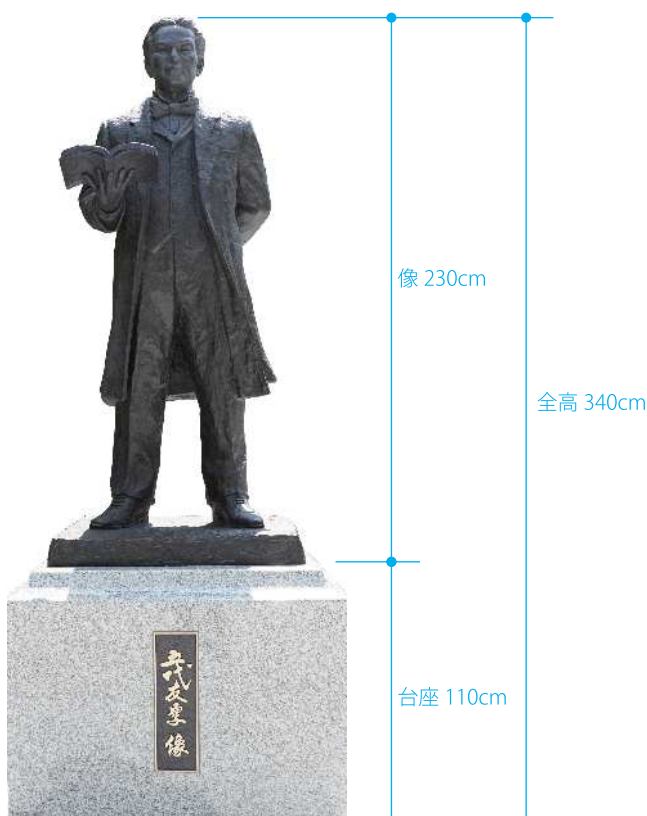
## ②銅像、碑文板

A. 五代銅像・・・高さ：全高340cm

(台座：高さ110cm、像：高さ230cm)、  
幅：155×155cm

耐震強度：震度7以上(保証書取り付ける)

台座石は、純国産(茨城県の一部でしか産出しない)希少で最高級な無垢の「稲田石」で、約4t弱の重量。



・平成27年10月17日

五代友厚銅像建立プロジェクトメンバーである柴田、大西の両氏が銅像の制作をお願いしている、富山県高岡市在住の銅像作家：喜多敏勝先生のアトリエに赴き、まだ粘土ベースではあるが、制作中の五代友厚銅像を検分し、希望通り、右手に本を持ち、遠く海外を見据えるイケメンのお顔に納得し、ゴーサインを出して、日帰り弾丸出張で帰阪した。



銅像作家：喜多敏勝先生と制作中の五代友厚像



粘土ベースでの五代友厚銅像を検分

B. 碑文銘・・・高さ：110cm、幅：70×50cm

(碑文は鹿児島県立図書館長・原口 泉先生の監修による)

### ③台座及び銅像据え付け時期

当初は五代友厚の生誕180周年を前提に平成28年1月末日全て完了を目途にしていたが、除幕式典が大学行事(入学試験)等の関係で約1カ月遅れとなり、最終的には台座の設置が平成28年1月中旬、銅像の据え付けは2月20日になった。

特に、寄付者(10万円以上)の氏名(学部、卒業年次)を台座の左右の銘板に刻印する作業にかなり時間を要したが、結果的にスケジュール調整できた。



碑文とQRコード



工事中の五代スクエア



五代銅像をクレーン重機で搬入・設置



五代友厚銅像建立プロジェクトメンバー  
左から 出原康雄・下崎千代子リーダー・植田浩吉・柴田洋・羽原頭三・大西基勝



# 五代友厚銅像建立 寄付者一覽

## 【寄付金 1000 万円】

1 件

### ●商学部

【昭 38 卒】岩佐 亘純

## 【寄付金 100 万円以上】

9 件

### ●商学部

【昭 33 卒】坂元 正裕  
【昭 57 卒】柴田 洋  
【昭 62 卒】吉田 祐一

### ●経済学部

【昭 46 卒】塚本 喜左衛門

### ●工学部

【昭 38 卒】坂根 正弘

### ●生活科学部

【平 17 卒】植田 光紀

大阪市立大学商友会  
(会長 岡本直之)

佐合紘一ゼミOB会(商学部)

西良一(株式会社マツセズ  
商会代表取締役)

## 【寄付金 50 万円】

3 件

### ●商学部

【昭 49 卒】尾山 基

### ●医学部

【昭 44 卒】山田 忠尚

森下会一同(商学部 森下二  
次也ゼミ)

## 【寄付金 10 万円以上】

計 167 件

### ●大阪商科大学 高等商業部

3 件

【昭 8 卒】麻殖生 清一  
【昭 19 卒】市山 弘  
【昭 25 卒】谷 実

### ●大阪商科大学 4 件

【昭 19 卒】本地 哲夫  
【昭 23 卒】安部 誠次  
【昭 27 卒】村上 豊  
【昭 28 卒】岡田 要生

### ●商学部 46 件

【昭 28 卒】大手 崇  
【昭 29 卒】池田 武  
【昭 32 卒】岩岡 勤  
【昭 35 卒】山内 莊作  
酒本 昌彦  
松本 昭二  
【昭 37 卒】林 同来  
【昭 38 卒】津田 喜宏  
戸奈 常光  
羽原 顕三  
【昭 39 卒】奥村 健  
【昭 40 卒】福井 健次  
船曳 賢次郎  
播本 捷一郎

吉田 俊雄  
福入 昭二  
【昭 41 卒】黒川 恭平  
【昭 42 卒】的場 正躬  
宮高 智彦  
【昭 44 卒】奥本 勝彦  
亀田 速穂  
誉田 豊  
【昭 45 卒】岡本 直之  
【昭 46 卒】新 榮一郎  
那谷 勝久  
【昭 49 卒】里田 百子  
【昭 50 卒】坂本 陽子  
【昭 52 卒】大西 基勝  
下崎 千代子  
永井 春夫  
原 重雄  
堀江 寿郎  
【昭 54 卒】五藤 良一  
水嶋 延和  
【昭 55 卒】木村 道子  
【昭 56 卒】金村 福寿  
水谷 雅英  
【昭 57 卒】柴田 洋  
【昭 58 卒】福嶋 幸太郎  
【平 2 卒】島田 康史  
【平 10 卒】吉川 長太

木村和三郎ゼミ昭和 38 卒

伊藤 淳巳ゼミ経友会

川合一郎研究会

山形休司ゼミ有志

加藤司ゼミ

### ●経済学部 23 件

【昭 30 卒】宇野 實  
木村 陽吉  
【昭 31 卒】山崎 英太郎  
【昭 32 卒】須藤 邦夫  
【昭 33 卒】星川 順一  
【昭 34 卒】中村 恭三  
【昭 36 卒】中村 和博  
南方 弘  
【昭 38 卒】上村 恭一郎  
熊谷 隆一郎  
【昭 40 卒】川口 俊夫  
【昭 41 卒】食満 厚造  
【昭 42 卒】出原 康雄  
【昭 44 卒】杏中 保夫  
参鍋 洋三  
古川 弘成  
【昭 46 卒】大谷 和  
富田 博重  
葉利 博  
【昭 49 卒】瀧川 実  
【昭 55 卒】宮永 昭弘  
【平 6 卒】三木田 敏美

経友会

### ●法学部 19 件

【昭 32 卒】上田 陽通  
【昭 34 卒】上原 洋允  
【昭 35 卒】中川 富佐夫  
【昭 36 卒】柳原 恒久  
【昭 38 卒】久保 豊章  
山中 清孝  
【昭 40 卒】山路 均  
【昭 41 卒】村山 廣甫  
【昭 44 卒】植田 浩吉  
福島 英二  
【昭 49 卒】床並 良一

【昭 51 卒】宇野 隆  
【昭 52 卒】白石 研二  
【昭 55 卒】森 貴章  
【昭 58 卒】朴 啓子  
【昭 60 卒】佐田 哲司  
【昭 62 卒】甲木 弘  
【平 5 卒】黒木 理恵  
【平 13 卒】猪野 浩司

### ●文学部 6 件

【昭 35 卒】福井 康子  
松木 延次郎  
【昭 36 卒】畑田 美智子  
【昭 37 卒】松本 進  
【昭 43 卒】食満 香織  
【平 10 卒】加藤 康子

### ●理工学部 7 件

【昭 25 卒】井上 俊一  
【昭 28 卒】小刀欄 義治  
西畑 恵治  
【昭 30 卒】杉浦 重光  
【昭 31 卒】小来田 昭  
【昭 32 卒】川本 克晃  
蜂谷 昇

### ●理学部 9 件

【昭 39 卒】波田 重熙  
【昭 41 卒】児玉 隆夫  
【昭 46 卒】横田 修一郎  
【昭 48 卒】圓藤 吟史  
久保 史章  
【昭 51 卒】沖津 由紀子  
【昭 55 卒】木村 真一  
【平 5 卒】楠本 一孝  
【平 25 卒】久保 共生

### ●工学部 13 件

【昭 33 卒】福井 康雄  
【昭 34 卒】岩井 求  
岸 忠男  
【昭 36 卒】行藤 三男  
【昭 41 卒】平野 忠良  
【昭 44 卒】竹中 恭二  
【昭 45 卒】和倉 慎治  
【昭 48 卒】林 雅博  
【昭 49 卒】宇野 勝久  
【昭 51 卒】永田 紳一  
【昭 62 卒】尾崎 竜太郎  
【平 6 卒】中谷 成智  
【平 22 卒】眞田 誠

### ●医学部 26 件

【昭 24 卒】伊藤 成幸  
山本 研二郎  
【昭 26 卒】楊 大鵬  
【昭 31 卒】横山 俊彦  
【昭 33 卒】鳥邊 博正  
【昭 37 卒】東 禹彦  
加藤 博明  
【昭 39 卒】東 順子  
宮本 武  
【昭 40 卒】下峠 雅史  
【昭 43 卒】藤原 良江  
【昭 44 卒】生野 照子  
生野 弘道  
【昭 45 卒】三島 泰彦  
【昭 46 卒】平田 宗興  
【昭 47 卒】吉田 昌司  
【昭 49 卒】林 正樹  
【昭 51 卒】荒木 誠  
森下 常一  
【昭 52 卒】中谷 守一  
【昭 57 卒】平山 栄一  
玉田 善雄  
【昭 58 卒】孝橋 慶一

福田 哲郎  
【平 5 卒】栗岡 政典  
【平 13 卒】三好 博子

### ●生活科学部 9 件

【昭 20 卒】植坂 通子  
【昭 25 卒】間 信子  
【昭 30 卒】若松 次郎  
【昭 32 卒】岡田 美津子  
【昭 33 卒】河合 照幸  
鄭 大聲  
【昭 38 卒】トモコ・タニグチ  
【昭 48 卒】木下 清美  
【平 6 卒】岡田 直人

### ●創造都市研究科 1 件

【平 18 卒】李 千秋

### ●同窓会支部 1 件

大阪市立大学同窓会北陸支部

## 【寄付金 1 万円以上】

計 838 件

### ●大阪商科大学 高等商業部

8 件

【昭 17 卒】小畑 幸雄  
【昭 19 卒】藤井 昇  
【昭 20 卒】佐々木 高久  
【昭 23 卒】岸田 典雄  
前田 信男  
【昭 26 卒】松浦 義雄  
鯉谷 重幸  
【昭 28 卒】谷口 茂久

### ●大阪商科大学 19 件

【昭 13 卒】西川 泰次  
【昭 19 卒】中川 泰治  
【昭 20 卒】堀内 英雄  
【昭 21 卒】福原 好次郎  
【昭 22 卒】徳永 進  
森 茂樹  
【昭 24 卒】宮山 繁一  
【昭 26 卒】北山 守  
野村 睦人  
【昭 27 卒】井上 裕之  
勝山 良一  
【昭 28 卒】服部 元輝  
内山 博雄  
江川 兵次郎  
鈴木 ハツコ  
武田 郁夫  
竹保 正孝  
西尾 忠夫  
本田 浩

### ●商学部 149 件

【昭 28 卒】多屋 修一  
山形 休司  
深草 克士  
【昭 30 卒】塩川 万治郎  
武部 弘  
中飯 速雄  
中川 静雄  
【昭 31 卒】稲田 大昭  
杉山 元造  
武津 和良  
福岡 正祐  
【昭 32 卒】朝倉 重道  
岩 實  
小野 明德  
河田 清志  
国島 道夫  
阪上 祐二郎  
市口 裕一



- |          |              |              |        |          |
|----------|--------------|--------------|--------|----------|
| 嶋田 久雄    | 小野 健一        | 【昭 31 卒】     | 岩佐 三男  | 山田 紘一郎   |
| 徐 龍達     | 【昭 46 卒】     | 小谷 政弘        | 唄 真二   | 吉村 正勝    |
| 淡河 哲夫    | 佐野 順一        | 佐野 順一        | 加藤 芳英  | 【昭 42 卒】 |
| 辻 義重     | 塩田 保         | 塩田 保         | 古賀 仁   | 角野 浩     |
| 新谷 正信    | 清水 奉明        | 清水 奉明        | 二宮 迪夫  | 北野 一也    |
| 堀 齊      | 末村 亘         | 末村 亘         | 原村 耕三  | 白井 正顕    |
| 堀内 啓三    | 福井 藤次郎       | 福井 藤次郎       | 石原 靖造  | 松田 芳昭    |
| 山本 榮三    | 森本 弘義        | 森本 弘義        | 久保 勇   | 南本 保     |
| 【昭 33 卒】 | 今枝 顕夫        | 今枝 顕夫        | 西 幹雄   | 宮本 良成    |
| 今谷 哲男    | 楠本 政幸        | 楠本 政幸        | 丸山 茂雄  | 村野 敬治郎   |
| 上橋 輝重    | 隈下 佳剛        | 隈下 佳剛        | 石川 道晶  | 山田 英範    |
| 勝部 一郎    | 小西 悟         | 小西 悟         | 植村 保司  | 【昭 43 卒】 |
| 津下 暢男    | 堺 一朗         | 堺 一朗         | 大谷 整一  | 天野 元良    |
| 林田 洋一    | 中村 俊久        | 中村 俊久        | 柏木 敏治  | 大津 寄秀昭   |
| 藤田 武司    | 二江 松男        | 二江 松男        | 上田 武雄  | 沖 誠一郎    |
| 村田 匡     | 日 大吉         | 日 大吉         | 植田 一   | 龜村 幸司    |
| 大和 晋     | 森田 定和        | 森田 定和        | 齋藤 三朗  | 木野 比佐司   |
| 【昭 34 卒】 | 【昭 48 卒】     | 【昭 48 卒】     | 高田 直彦  | 辻 幹彦     |
| 吉田 幸雄    | 青木 幸美        | 青木 幸美        | 高橋 宏   | 西 啓隆     |
| 大橋 忠夫    | 前川 信義        | 前川 信義        | 西尾 雅一  | 能瀬 巖     |
| 河井 功     | 【昭 50 卒】     | 【昭 50 卒】     | 橋本 芳久  | 野村 雅昭    |
| 鳥居 貞義    | 大谷 信幸        | 大谷 信幸        | 板垣 望   | 平田 義繼    |
| 【昭 35 卒】 | 河田 行隆        | 河田 行隆        | 岡井 英己  | 【昭 44 卒】 |
| 松重 泰     | 崎山 光友        | 崎山 光友        | 清住 紳三  | 加藤 浩史    |
| 池永 英夫    | 島津 修         | 島津 修         | 越崎 康雄  | 寺田 栄造    |
| 板垣 衛武    | 高谷 英治        | 高谷 英治        | 杉田 公孝  | 堀 裕雄     |
| 大西 隆夫    | 村上 道隆        | 村上 道隆        | 谷川 昌弘  | 牧野 忠廣    |
| 岡本 庸夫    | 吉田 稔         | 吉田 稔         | 殿護 隆司  | 溝川 茂久    |
| 久保 信彦    | 植嶋 平治        | 植嶋 平治        | 福井 成康  | 【昭 45 卒】 |
| 澤本 赴男    | 福岡 真也        | 福岡 真也        | 福岡 孝一  | 武光 祐司    |
| 鈴木 清次郎   | 【昭 52 卒】     | 【昭 52 卒】     | 古家 章   | 塚田 博人    |
| 徳永 博     | 花井 健         | 花井 健         | 吉川 八郎  | 平尾 幸一    |
| 平井 輝夫    | 棟居 秀信        | 棟居 秀信        | 吉川 正男  | 村岡 健治    |
| 前田 佳稔夫   | 【昭 53 卒】     | 【昭 53 卒】     | 小野 重雄  | 湯口 靖孝    |
| 【昭 36 卒】 | 竹内 豊         | 竹内 豊         | 中井 敏男  | 芦原 健     |
| 池嶋 豊光    | 湯原 政文        | 湯原 政文        | 野村 鉄男  | 【昭 46 卒】 |
| 岡本 正晴    | 【昭 54 卒】     | 【昭 54 卒】     | 金井 邦夫  | 【昭 47 卒】 |
| 小山 修二    | 木滑 和生        | 木滑 和生        | 工藤 治夫  | 井上 昭三    |
| 廣内 勝治    | 吉武 一郎        | 吉武 一郎        | 坂弘 志   | 中村 忠夫    |
| 【昭 37 卒】 | 古濱 勝三        | 古濱 勝三        | 佐藤 博之  | 松本 好信    |
| 松永 和泰    | 坂口 浩章        | 坂口 浩章        | 鈴木 康二  | 虫明 優     |
| 木股 健     | 【昭 56 卒】     | 【昭 56 卒】     | 寺田 正博  | 岡村 美孝    |
| 【昭 38 卒】 | 【昭 57 卒】     | 【昭 57 卒】     | 南部 昌弘  | 櫻井 賢一    |
| 杉森 道弘    | 【昭 58 卒】     | 【昭 58 卒】     | 野崎 充亮  | 栗田 眞孝    |
| 新居 周三    | 筋原 章博        | 筋原 章博        | 藤井 淳之亮 | 徳物 文雄    |
| 加藤 泰山    | 國部 克彦        | 國部 克彦        | 北條 訓男  | 西口 信行    |
| 松崎 利治    | 満井 康之        | 満井 康之        | 前山 巍   | 【昭 50 卒】 |
| 山本 憲司    | 浦上 悟         | 浦上 悟         | 松本 政男  | 前川 昌宏    |
| 吉田 忠司    | 岡村 健司        | 岡村 健司        | 宮澤 博臣  | 松浦 康裕    |
| 渡辺 圭介    | 橋本 修次        | 橋本 修次        | 村井 節男  | 【昭 51 卒】 |
| 【昭 39 卒】 | 北原 恵         | 北原 恵         | 柳田 健   | 三谷 英司    |
| 垣内 成之    | 北ノ原 清隆       | 北ノ原 清隆       | 山本 隆造  | 宮本 岩男    |
| 河内 義郎    | 高野 勝行        | 高野 勝行        | 陸野 桂   | 【昭 52 卒】 |
| 久保 信     | 【平 22 卒】     | 【平 22 卒】     | 奥村 修二  | 神藤 敏文    |
| 澤田 喜八郎   | 【平 25 卒】     | 【平 25 卒】     | 中野 眞雅  | 西倉 高明    |
| 勢井 峯生    | 寺井 まりな       | 寺井 まりな       | 長畑 毅   | 【昭 53 卒】 |
| 【昭 40 卒】 | ● 経済学部 159 件 | ● 経済学部 159 件 | 山幡 一雄  | 清成 真一    |
| 船元 嘉一    | 【昭 23 卒】     | 【昭 23 卒】     | 岩槻 芳昭  | 【昭 54 卒】 |
| 藤井 克明    | 西口 達雄        | 西口 達雄        | 梶原 武治  | 梶屋 洋一郎   |
| 【昭 41 卒】 | 【昭 28 卒】     | 【昭 28 卒】     | 加藤 紘一  | 炭山 明弘    |
| 奥村 恵勇    | 徳永 雄一郎       | 徳永 雄一郎       | 戸田 浩   | 二口 隆洋    |
| 成山 正博    | 若林 健介        | 若林 健介        | 森 武義   | 岡本 年行    |
| 山下 隆     | 石黒 直文        | 石黒 直文        | 森口 稔   | 大野 卓哉    |
| 【昭 42 卒】 | 市口 精一郎       | 市口 精一郎       | 甘田 外成  | 【昭 57 卒】 |
| 亀田 紘一    | 大西 義夫        | 大西 義夫        | 井奥 博之  | 【昭 58 卒】 |
| 木下 信     | 河崎 清         | 河崎 清         | 蔵岡 一彦  | 神原 忠明    |
| 川面 幸雄    | 倉田 喜弘        | 倉田 喜弘        | 宮崎 憲司  | 【昭 59 卒】 |
| 高橋 敏朗    | 佐久間 昇二       | 佐久間 昇二       | 山田 義信  | 森 聡彦     |
| 竹山 健二    | 土倉 毅         | 土倉 毅         | 岩本 彰三  | 【昭 61 卒】 |
| 玉置 昭     | 土井 魏         | 土井 魏         | 大平 恒巳  | 【平元卒】    |
| 【昭 43 卒】 | 【昭 30 卒】     | 【昭 30 卒】     | 齋藤 晃一郎 | 名田 久幸    |
| 西井 昭     | 大川 厚         | 大川 厚         | 杉田 清史  | 【平 8 卒】  |
| 肥塚 重雄    | 岡田 喜三郎       | 岡田 喜三郎       | 中川 邦彦  | 【平 13 卒】 |
| 三宅 隆雄    | 阪井 康時        | 阪井 康時        | 南 弘之   | 【平 19 卒】 |
| 乾 洋司     | 高木 健次        | 高木 健次        | 八木 孝昌  | 【平 22 卒】 |
| 川崎 太郎    | 滝上 正三        | 滝上 正三        |        | 【平 23 卒】 |
| 谷口 史恭    | 龍口 篤夫        | 龍口 篤夫        |        | 【平 26 卒】 |
| 永峯 孝     | 横山 修一        | 横山 修一        |        |          |
| 【昭 44 卒】 |              |              |        |          |
| 花井 武士    |              |              |        |          |
| 宇野 克彦    |              |              |        |          |
| 小角 勝次    |              |              |        |          |
| 原田 利明    |              |              |        |          |
| 【昭 45 卒】 |              |              |        |          |
| 今坂 宏行    |              |              |        |          |
| 片岡 尹     |              |              |        |          |
| 矢追 善也    |              |              |        |          |
| 小椋 榮和    |              |              |        |          |

五代友厚銅像建立 寄付者一覽

- 【昭 35 卒】 佐近 彰
- 【昭 36 卒】 有本 英一  
勝田 鉄也  
周藤 弘
- 【昭 37 卒】 相原 戦太郎
- 【昭 38 卒】 大南 裕靖
- 【昭 39 卒】 岡野 幸義  
瀧本 憲一  
中村 忠彦  
松井 慶慎
- 【昭 40 卒】 青木 洋隆  
恒岡 伸治  
久山 晃  
松尾 健介
- 【昭 41 卒】 池田 剛甫  
阪口 慶造  
宮部 良一
- 【昭 42 卒】 河野 猛
- 【昭 44 卒】 鴨田 幸信  
小林 俊介  
齋藤 郁朗  
森下 修吉
- 【昭 45 卒】 吉田 潔  
荒鹿 哲一  
片山 龍  
中川 健一  
樋上 晴雄  
松下 健二  
松原 健士郎
- 【昭 46 卒】 木村 眞敏  
小林 克美  
竹田 宏
- 【昭 48 卒】 安宅 寿昭  
加藤 良一  
田中 達三
- 【昭 49 卒】 岡村 順子  
国枝 敏孝  
田中 升雄  
前藤 勝
- 【昭 50 卒】 恵崎 和則  
正殿 博章  
高松 茂
- 【昭 51 卒】 岩本 為雄  
西崎 光彦  
藤山 純一  
吉本 義人
- 【昭 52 卒】 近藤 潔  
滝村 洋樹
- 【昭 53 卒】 清田 祐二  
中村 宜也  
宮里 保男
- 【昭 54 卒】 木水 勲  
寺川 博之  
山崎 真樹生
- 【昭 57 卒】 奥田 敬明  
田原 欣司
- 【昭 58 卒】 田中 正宗  
若尾 壽幸
- 【昭 60 卒】 北邑 隆行  
於勢 二郎
- 【昭 61 卒】 谷口 大輔  
山本 幸久
- 【平元卒】 奥野 陽子
- 【平 5 卒】 新井 美穂子
- 【平 7 卒】 青木 正樹
- 【平 12 卒】 正野 弘和  
郭 東昇
- 【平 19 卒】 西岡 聡美
- 【平 20 卒】 小野 寺 勲
- 【平 24 卒】 杉田 大輔
- 文学部 47 件
- 【昭 22 卒】 保田 桑三
- 【昭 29 卒】 平明 暘
- 【昭 30 卒】 赤井 有  
鈴木 貞子
- 【昭 31 卒】 岸上 房良
- 【昭 32 卒】 奥野 郷太郎  
花垣 厚實
- 【昭 33 卒】 中谷 昌義  
東野 美智代  
松下 任久  
安場 弘彦
- 【昭 34 卒】 奥田 幸治郎
- 【昭 35 卒】 中島 博文  
武藤 元康
- 【昭 36 卒】 片山 智行  
川西 育子  
中村 隆  
森本 喬
- 【昭 38 卒】 村島 一雄
- 【昭 39 卒】 小林 立  
杉本 享子  
名倉 佳之  
岩佐 昌暉
- 【昭 41 卒】 九井 和子
- 【昭 42 卒】 和田 臣子
- 【昭 44 卒】 西村 喜代司
- 【昭 46 卒】 左子 真由美  
西川 泰子
- 【昭 47 卒】 石田 孝文
- 【昭 48 卒】 中野 恵子
- 【昭 49 卒】 森田 秀朗
- 【昭 51 卒】 片木 哲男
- 【昭 52 卒】 稲川 健一
- 【昭 54 卒】 浦崎 芳子  
堀川 依功子
- 【昭 57 卒】 大島 吉郎  
吉村 延
- 【昭 58 卒】 岩田 淳尚
- 【昭 59 卒】 赤路 清人
- 【昭 60 卒】 大友 昌文
- 【昭 61 卒】 小竹 淳美
- 【昭 62 卒】 石田 眞弓  
景山 滋夫
- 【平 10 卒】 三森 芳
- 【平 11 卒】 柳田 奈帆子
- 【平 21 卒】 仲原 加奈子
- 【平 23 卒】 小田 立
- 理工学部 27 件
- 【昭 25 卒】 片岡 弘一
- 【昭 28 卒】 藤本 光博
- 【昭 29 卒】 笹部 良信  
廣岡 孝一
- 【昭 30 卒】 木村 力夫
- 【昭 31 卒】 植野 道雄  
岡本 好郎  
金子 厚男  
辻野 博  
萩 武文  
原田 次夫  
人見 宗男  
松本 稔  
三浦 士郎  
三木 幸蔵
- 【昭 32 卒】 小野 正登  
玉井 義弘
- 【昭 33 卒】 射場 祥夫  
杉田 是好  
瀧内 峻  
永嶋 司郎  
西村 邦夫  
松尾 宏太郎
- 【昭 34 卒】 岩田 賢造  
新田 精一  
不可三 晃  
吉岡 隆
- 理学部 37 件  
(うち匿名 2 件)
- 【昭 33 卒】 鈴木 彩司
- 藤田 崇
- 【昭 36 卒】 小寺 訓治  
鳥取 浩  
広田 一郎  
山口 喜一
- 【昭 37 卒】 南浦 能至  
森野 奎二  
山下 徹志  
山本 高義
- 【昭 38 卒】 日下 淑子  
松村 富次郎
- 【昭 39 卒】 野田 健一郎
- 【昭 40 卒】 中井 久純
- 【昭 41 卒】 西田 良平
- 【昭 42 卒】 田中 弘富  
中筋 勲
- 【昭 43 卒】 疇地 道俊  
中務 公子  
松田 伸雄
- 【昭 44 卒】 井上 和彦
- 【昭 46 卒】 市村 彰男
- 【昭 47 卒】 松田 剛
- 【昭 48 卒】 奥村 滋  
中川 みはる  
山本 益資
- 【昭 49 卒】 寺田 紀幸
- 【昭 50 卒】 仲本 徳尚  
湯浅 勝行
- 【昭 51 卒】 上田 信夫  
立川 隆洋
- 【昭 56 卒】 上山 陽
- 【平 12 卒】 岸野 敏昌
- 【平 21 卒】 太農 哲朗
- 【平 26 卒】 佐々木 義人
- 【匿名希望 2 名】
- 工学部 79 件
- 【昭 28 卒】 河合 和三郎  
柏田 幸男  
小島 明
- 【昭 29 卒】 近藤 信勝
- 【昭 30 卒】 森岡 秀隆
- 【昭 31 卒】 中島 忠夫
- 【昭 32 卒】 湯本 逸
- 【昭 33 卒】 東 忠則
- 【昭 34 卒】 京極 幸夫  
向阪 保雄  
小林 弘一
- 【昭 35 卒】 佐藤 孝  
建部 涉  
十一家 洋一  
中島 重子  
西村 善明  
森 宏文  
吉田 淳
- 【昭 36 卒】 小田 隆之  
及川 喜弘  
塩飽 弘  
園田 恵一郎  
野町 和
- 【昭 37 卒】 近藤 紘一  
下谷 毅夫  
高下 照久  
土井 昭政  
松岡 要三  
宮本 潔
- 【昭 38 卒】 北出 靖夫  
阪口 鉄兵  
佐藤 紘二  
浜田 勝  
中村 恭三
- 【昭 39 卒】 稲田 信介  
久田 秀穂
- 【昭 41 卒】 百瀬 豊
- 【昭 43 卒】 山口 英昌  
荒木 伸子
- 荒木 弘  
坪井 貞夫  
西口 克彦  
宮本 万功
- 【昭 44 卒】 北山 佳計  
花原 清和  
森山 弘
- 【昭 45 卒】 七條 徳成  
中西 岩大  
野田 忠男  
南 繁行  
山本 孝
- 【昭 46 卒】 岡保  
住吉 正信  
徳丸 正廣  
中井 康秀  
中桐 良雄  
松塚 幾善  
松村 敏美
- 【昭 48 卒】 上野 健  
大山 基欽
- 【昭 49 卒】 大嶋 寛  
中尾 隆史
- 【昭 52 卒】 高島 佐太重  
山中 朗
- 【昭 53 卒】 池田 博英  
池田 裕  
伊崎 修  
田中 三郎
- 【昭 54 卒】 藤本 正史
- 【昭 55 卒】 永塚 弘敏  
中野 敏郎  
東野 哲二
- 【昭 56 卒】 中野 道夫  
松本 宏基  
彌島 正博
- 【昭 59 卒】 木村 正昭
- 【平 27 卒】 松浦 啓介  
【修士 1 年在学中】  
津室 雄志
- 医学部 163 件
- 【昭 24 卒】 梅山 馨  
山中 通弘
- 【昭 27 卒】 今子 邦男  
木下 孟  
寺本 清
- 【昭 28 卒】 羽生 文武
- 【昭 29 卒】 木下 博  
塚崎 義人  
前田 泰生  
藤森 貢
- 【昭 30 卒】 河村 泰男
- 【昭 31 卒】 葛尾 信弘
- 【昭 32 卒】 久保 正治  
土屋 英和  
原 葉子  
福住 弘雄  
門奈 文之  
岩崎 善徳  
上道 哲  
久志 本 弘  
阪本 仁子
- 【昭 34 卒】 曾和 融生  
中井 義明  
服部 洋
- 【昭 35 卒】 島 一秀  
鶴原 常雄  
新見 和子  
廣橋 賢次  
三好 宏  
吉中 正好  
朝倉 治美  
大島 久明  
越智 宏暢

關 淳一  
辻 瀧太郎  
中井 澄子  
西村 良一  
山家 康嗣  
【昭 37 卒】相原 宏司  
上江田 安彦  
大谷 周造  
大橋 藏一  
長田 明  
山田 龍作  
山野 慶樹  
【昭 38 卒】木下 博明  
野坂 純一郎  
濱田 和孝  
【昭 39 卒】赤埴 豊  
伊藤 肇  
吉條 久友  
難波 彰一  
藤井 弘一  
松村 克彦  
【昭 40 卒】石倉 保彦  
柳谷 和紀  
【昭 41 卒】大道 彰  
岡本 輝夫  
門林 亮太  
北村 豊  
【昭 43 卒】早原 信行  
中川 元子  
永井 弘  
福富 經昌  
湯淺 肇  
【昭 44 卒】梅田 耕作  
瓦谷 仁志  
津田 勇平  
林 俊一  
松田 英樹  
山戸 庸光  
山本 雅規  
【昭 45 卒】内間 恭堅  
裏辻 康秀  
太田 要生  
亀井 輝二  
桑島 士郎  
辰己 駿一  
寺田 忠之  
中尾 昭治  
橋本 務  
【昭 46 卒】尾崎 高志  
中澤 秀夫  
中西 和子  
畑山 巧  
三浦 靖徳  
水野 滋  
山口 勝治  
【昭 47 卒】福田 照男  
森澤 康二  
【昭 48 卒】石岡 勉  
高木 義博  
鄭 勝之  
中嶋 一行  
藤田 敬之助  
森 明美  
山本 定慶  
【昭 49 卒】揖場 和子  
大北 日吉  
高見 勝次  
玉手 信治  
松井 孝安  
【昭 50 卒】平川 弘聖  
平松 多喜男  
【昭 51 卒】小森 忠光  
佐藤 守男  
西谷 博  
【昭 52 卒】乾 博史  
森本 修

【昭 53 卒】飯田 伊佐男  
大峰 教二  
小田 公子  
黒澤 範夫  
坂口 和成  
宮本 東雨  
【昭 54 卒】前久 保邦昭  
前田 正信  
松影 憲三  
【昭 55 卒】安田 光隆  
【昭 56 卒】金 貞孝  
巽 純子  
瀧野 敏子  
中村 敏子  
芳野 裕明  
【昭 57 卒】堀川 博誠  
前田 敬文  
増田 博  
【昭 59 卒】寺井 岳三  
長谷川 健太  
矢田 克嗣  
【昭 60 卒】今城 保定  
柴田 利彦  
田中 宏  
宮内 晃  
【昭 61 卒】新谷 真知子  
竹内 伸江  
東條 周子  
馬場 清一  
【昭 62 卒】井上 幸紀  
【昭 63 卒】下川 耕太郎  
橋 克英  
【平元卒】中村 多一  
中村 博亮  
【平 3 卒】高橋 達治  
安永 千尋  
【平 5 卒】瀬戸 俊之  
吉川 貴仁  
【平 7 卒】山本 恒彦  
【平 8 卒】柿崎 裕彦  
宮脇 大  
【平 9 卒】國本 奈津子  
【平 10 卒】福島 若葉  
【平 11 卒】大藤 さとこ  
【平 13 卒】新谷 道代  
【平 15 卒】梯 アンナ  
【平 16 卒】月元 友厚  
【平 18 卒】加賀 慎一郎  
濱田 真宏  
【教員】川北 幸男  
藤田 整  
森村 美奈  
矢頃 恒三  
山野 恒一

●看護系 12 件  
【昭 19 卒】島 美代  
【昭 21 卒】藤本 宣子  
【昭 25 卒】安東 満里子  
【昭 33 卒】金澤 幸子  
【昭 36 卒】松原 靖子  
【昭 40 卒】島埜内 ヤツ子  
【昭 41 卒】小櫻 恵美子  
【昭 44 卒】白田 久美子  
【昭 50 卒】小西 千恵子  
【昭 54 卒】宮本 喜代美  
【昭 56 卒】高野 直子  
【昭 58 卒】紫藤 雅子

●生活科学部 53 件  
【昭 4 卒】北田 幸子  
【昭 7 卒】本郷 登美子  
【昭 11 卒】折橋 佳子  
【昭 20 卒】藤井 キヨ子  
【昭 23 卒】井坂 清子

【昭 24 卒】浅香 節子  
鈴木 美佐子  
中郷 ヒサエ  
【昭 25 卒】橋本 久子  
【昭 26 卒】長谷川 富美子  
【昭 27 卒】中元 妙子  
【昭 28 卒】中院 秀久  
吉原 民子  
【昭 30 卒】佐藤 悦子  
里田 勝子  
【昭 31 卒】河村 英二  
樋上 都満子  
【昭 32 卒】奥野 正子  
【昭 33 卒】小笠原 敦子  
田中 芳子  
福地 敬子  
【昭 35 卒】石田 美代子  
植松 暉子  
津田 つる子  
中島 千枝子  
並川 貞子  
箕浦 嘉代  
【昭 36 卒】中阪 緑  
【昭 38 卒】上田 乍和子  
岡本 佳子  
唐渡 孝枝  
岸本 幸臣  
【昭 39 卒】樋渡 満里子  
松井 啓子

【昭 40 卒】宮本 道子  
岡本 陽子  
勝部 朋子  
木下 洋子  
【昭 41 卒】前田 昭子  
【昭 42 卒】藤原 登志子  
【昭 43 卒】大根 照子  
酒井 敦子  
増田 寿子  
【昭 44 卒】岡 倫代  
山下 昭美  
【昭 46 卒】石橋 喜美子  
松岡 貴世子  
【昭 52 卒】山下 和子  
【昭 53 卒】齋喜 珠子  
寺田 久美子  
【昭 60 卒】筋原 祐子  
【平 4 卒】飛田 優子  
【平 16 卒】大矢根 亜希

●創造都市研究科 3 件  
【平 20 卒】山崎 英彦  
【平 24 卒】石井 信夫  
喜多 繁幸

●保護者 その他 2 件  
鈴木 鈴子  
福井 恵

(順不同)

## 五代友厚銅像建立寄付金件数・金額

2015年2/16～2016年2/20・五代プロジェクト委員会による集計

	寄付件数	寄付金額 (万円)
商大高商部	11	49
大阪商科大学	23	66
商学部	203	2,294
経済学部	183	544
法学部	99	296
文学部	53	114
理工学部	34	109
理学部	46	142
工学部	93	355
医学部	190	550
看護系	12	12
生活科学部	63	253
創造都市研究科	4	13
その他	4	112
合計	1,018	4,909

## 五代友厚銅像建立プロジェクト収支報告

平成28年9月30日現在 (単位:円)

I 収入の部		
寄付金 (1,018件)	49,090,000	
式典祝い金	160,000	
式典パーティー会費等	385,982	
収入合計	49,635,982	
II 支出の部		
銅像等制作費	17,931,136	銅像本体、台座、碑文石
庭園造成関連費用	12,394,684	テーブル・ベンチ・照明灯等設備含
記念式典関連費用	3,231,137	講演会、除幕式、記念パーティ
印刷費	2,022,501	PR、支援要請チラシ等
記念品費	1,758,000	同窓会バッチ贈呈
人件費通信費等	2,013,594	
支出合計	39,351,052	
III 収支差額金		
	10,284,930	

**FOOTWORK  
TEAMWORK  
NETWORKを活かして**



**阪和興業**  
<http://www.hanwa.co.jp>



I W A S A

草履・和装バッグ・フォーマルバッグ

**株式会社 岩 佐**

代表取締役会長 岩佐 亘純 (商昭38年卒)

代表取締役社長 岩佐 浩司

〒542-0073 大阪府大阪市中央区日本橋 2-14-4

TEL. (06)6633-4681 FAX. (06)6644-0025

# 医療法人 福寿会

(介護予防) 特定施設入居者生活介護 サービス付き高齢者向け住宅 **福寿**

**“安心安全な介護で笑顔の福寿”**

ゆったりとした「二人部屋」もございます。  
——ご夫婦で自由に、都会生活を楽しみませんか。



**入居者募集中**

〒544-0004 大阪市生野区巽北2丁目13-14  
**Tel.06-6752-2910**  
ふくじゅ

# かねむら歯科医院

歯科／小児歯科／口腔外科

理事長 金村 福寿  
歯学博士  
(大阪市立大学商学部昭和56年卒)  
(朝日大学歯学部卒)

明海大学歯学部 非常勤講師  
大阪歯科大学元 非常勤講師  
日本老年歯科医学会 専門医・指導医

専務理事	金村	光野
歯学博士	金村	直子
歯学博士	金村	優吾
医学博士	金村	晋吾
歯科医師	金村	裕貴
医学博士	藤本	英利子
理事	金村	舜
理事	金村	寿之佑

〒544-0004 大阪市生野区巽北2丁目17-15  
**Tel.06-6752-8148**  
ゴーツー ハイシャ



**WANT IT MORE**



Mie Kotsu Group

三  
重  
交  
通  
グ  
ル  
ー  
プ  
は  
、  
安  
全  
、  
安  
心  
、  
安  
定  
、  
快  
適  
な  
サ  
ー  
ビ  
ス  
を  
提  
供  
し  
ま  
す。



- 運輸業 三重交通株式会社 名阪近鉄バス株式会社 三交伊勢志摩交通株式会社 三重急行自動車株式会社 八風バス株式会社 株式会社三交タクシー
- 不動産業 三交不動産株式会社 株式会社三交コミュニティ 株式会社三交不動産鑑定所
- 流通業 三重交通商事株式会社 株式会社三交クリエイティブ・ライフ 株式会社三交イーエルツー 三重いすゞ自動車株式会社
- レジャー・サービス業 鳥羽シーサイドホテル株式会社 株式会社三交イン 三交興業株式会社 御在所ロープウェイ株式会社 名阪近鉄旅行株式会社 株式会社観光販売システムズ 株式会社三交ドライブインスクール 株式会社三重カントリークラブ 株式会社松阪カントリークラブ 三重県観光開発株式会社 ミドリサービス株式会社 三交ウェルフェア株式会社

三重交通グループホールディングス株式会社 〒514-0032 三重県津市中央1番1号  
http://holdings.sanco.jp



お買物は、  
近鉄百貨店で。

**Kintetsu**  
近鉄百貨店

本店(あべのハルカス)・上本町店・東大本店・奈良店・橿原店・  
生駒店・和歌山店・草津店・四日市店・名古屋店(近鉄パッセ)  
ホームページ [www.d-kintetsu.co.jp](http://www.d-kintetsu.co.jp)



自然とくらしを結ぶ  
環境づくり

 **近鉄造園土木株式会社**

〒631-0032  
奈良市あやめ池北3丁目1番54号

TEL 0742-93-8601  
FAX 0742-93-8602

**山口法律会計事務所**

弁護士 **山口 健一**  
(法・昭49年卒)

事務所 〒530-0047  
大阪市北区西天満1丁目7番20号  
JIN・ORIXビル6階

TEL. 06-6361-3234 FAX.06-6361-0096  
E-mai [office@yamaguchi-law.jp](mailto:office@yamaguchi-law.jp)  
URL : <http://www.yamaguchi-law.jp>

 **KDKトレーディング株式会社**

We are CHALLENGERS and DREAMERS

[www.kdk-t.jp](http://www.kdk-t.jp)

〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島803-1  
TEL : 078-948-2775 / FAX : 078-948-2785  
代表取締役 吉田祐一 (昭和62年商学部卒業)

弁護士法人なにわ共同法律事務所

弁護士 **鬼追 明夫**  
(法・昭32年卒)

事務所 〒530-0047  
大阪市北区西天満2丁目3番15号  
千都ビル2階

TEL. 06-6363-2191 FAX.06-6363-1468  
URL : <http://www.naniwakayodo.com>

 **ツカキ・グループ**

TSUKAKI  
夢ある商品 活力あるスタッフ  
そして信頼のビジネス

塚喜商事(株) ツカキ(株)  
京都和装(株) (株)マリエ クラッセ  
(株)タムラ etc

代表取締役  
社長 **塚本 喜左衛門 (経 昭 46 年卒)**

グループ ヘッドオフィス  
〒600-8412 京都市下京区烏丸通仏光寺上ル二帖半敷町 661 番地  
TEL. 075-341-1101 (大代表) <http://www.tsukaki.com>

**柴田国際公認会計士事務所**

公認会計士 **柴田 洋**  
税理士  
(商・昭57年卒)

〒541-0041  
大阪市中央区北浜1丁目1番14号  
北浜1丁目平和ビル8階

業務内容  
国際税務 コンサルティング  
香港 韓国 上海 上場支援  
アメリカ 店頭上場 支援  
アジア 会社設立コンサルティング  
日本 IFAS 決算 開示 監査  
海外子会社 監査 移転価格

電話 06-6203-8880  
FAX 06-6203-8881  
URL <http://www.hs-x.net>  
Mail [shibata@cam.hi-ho.ne.jp](mailto:shibata@cam.hi-ho.ne.jp)  
京阪北浜駅 29番出口直結

美術印刷・企画デザイン・フォト 

提案・創造 それが私共の商品です。

**株式会社 日本プリンティング**

代表取締役 **大西 基勝 (商・昭52年卒)**

〒537-0002  
大阪市東成区深江南2丁目13番17号  
TEL (06) 6981-5566 FAX (06) 6981-5083  
<http://www.nihonprinting.co.jp>

## 編集後記

五代友厚の銅像が建立されて早や6カ月が過ぎた。

大阪市立大学同窓会では五代友厚の志、進取の精神等を未永く伝承するため、五代友厚記念事業検討委員会がスタートした。

その第一歩として「五代友厚銅像建立記念誌」をお届けします。

この記念誌が五代友厚の思いを心の中に刻み続けることの一助になればと切に願う次第です。

平成28年10月吉日

大阪市立大学同窓会

五代友厚記念事業検討委員会

委員長 児玉 隆夫 (理院昭43卒)

委員 羽原 顕三 (商昭38卒)

出原 康雄 (経昭42卒)

植田 浩吉 (法昭44卒)

大西 基勝 (商昭52卒)

下崎 千代子 (商昭52卒)

柴田 洋 (商昭57卒)

大阪市立大学同窓会

生誕180周年 五代友厚銅像建立記念誌

発行日 平成28年10月吉日

発行所 大阪市立大学同窓会  
大阪市住吉区杉本3丁目3-138 大阪市立大学内  
電話 (06) 6605-2087

企画・編集 大阪市立大学同窓会 五代友厚記念事業検討委員会

デザイン、写真撮影、印刷・製本  
株式会社日本プリンティング



大阪市立大学同窓会